(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2020年1月2日(02.01.2020)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2020/004218 A1

(51) 国際特許分類:
A61F 13/42 (2006.01) *A61F 13/512* (2006.01)
A61F 13/511 (2006.01) *A61F 13/513* (2006.01)

(21) 国際出願番号： PCT/JP2019/024485

(22) 国際出願日： 2019年6月20日(20.06.2019)

(25) 国際出願の言語： 日本語

(26) 国際公開の言語： 日本語

(30) 優先権データ：
特願 2018-125581 2018年6月29日(29.06.2018) JP
特願 2018-125605 2018年6月29日(29.06.2018) JP

(71) 出願人:ユニ・チャーム株式会社(**UNICHARM CORPORATION**) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分１８２番地 Ehime (JP).

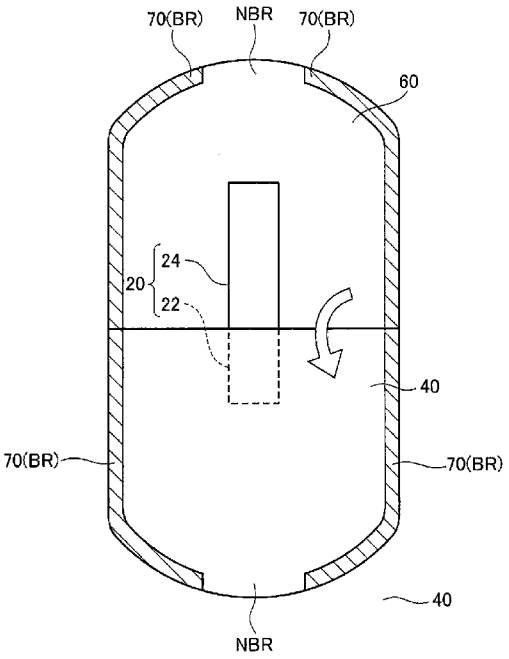
(72) 発明者:鈴木 裕哉(**SUZUKI, Yuya**); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－７ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 佐々木 徹(**SASAKI, Toru**); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－７ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

(74) 代理人: フェリシテ特許業務法人 (**FELICITE PATENT PROFESSIONAL CORPORATION**); 〒1050002 東京都港区愛宕二丁目５番１号 Tokyo (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JO, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(54) **Title:** ABSORBENT ARTICLE, AND PACKAGE

(54) 発明の名称： 吸収性物品、及び包装体



(57) **Abstract:** An absorbent article 1 comprises: an inspection member 20 for inspecting the state of health of the wearer; a front surface-side member 40 that includes at least a liquid-permeable top sheet, and that is disposed more on a skin surface side T1 than the inspection member 20; and a rear surface-side member 60 that includes at least a liquid-impermeable back sheet, and that is disposed more on the skin surface side T1 than the inspection member 20. The inspection member 20 has a contact section 22 that is brought into contact with excrement which has passed through the front surface-side member 40, and a display section 24 that displays, via an indicator, the state of health of the wearer in accordance with a target component contained in the excrement. The front surface-side member 40 covers at least a portion of the display section 24. The front surface-side member 40 can be peeled off from the rear surface-side member 60 so that the display section 24 is visually recognizable.

WO 2020/004218 A1

［続葉有］

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

一 国際調査報告(条約第21条(3))

(57) 要約:吸収性物品１は、着用者の健康状態を検査するための検査部材２０と、液透過性のトップシートを少なくとも含み、かつ検査部材２０よりも肌面側Ｔ１に配置されている表面側部材４０と、液不透過性のバックシートを少なくとも含み、かつ検査部材２０よりも肌面側Ｔ１に配置されている裏面側部材６０と、を備える。検査部材２０は、表面側部材４０を通過した排泄物を接触させる接触部２２と、排泄物に含まれる対象成分に応じて着用者の健康状態を指示薬により表示する表示部２４と、を有する。表面側部材４０は、表示部２４の少なくとも一部を覆っている。表面側部材４０は、表示部２４が視認可能になるように裏面側部材６０から剥離可能である。

明　細　書

発明の名称 ： 吸収性物品、及び包装体

技術分野

[0001]　本発明は、吸収性物品、及び包装体に関する。

背景技術

[0002]　特許文献１の図１には、着用者の健康状態を検査するための検査部材を有する吸収性物品が開示されている。検査部材は、吸収性物品の肌面側に配置されているセンサを有する。センサが排泄物に含まれる対象成分を検出することで、着用者の健康状態を確認することができる。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特表２００３－５１７５８４号公報

発明の概要

[0004]　特許文献１に開示された吸収性物品では、センサが肌面側で露出している。このため、吸収性物品の着用時に、センサが着用者の肌に直接触れてしまうため、吸収性物品に対する着用者の肌触りが悪化するおそれがある。また、センサは、対象成分を検出するための指示薬を含んでいる。従って、吸収性物品の着用時に、センサに含まれる指示薬が着用者の肌に触れるため、指示薬により着用者の肌がダメージを受ける虞がある。

[0005]　そこで、本発明は、上述した課題を解決するためになされたものであり、着用者の肌触りの悪化を抑制し易く、かつ指示薬による肌へのダメージを抑制し易い吸収性物品、及び包装体を提供する。

[0006]　本開示に係る吸収性物品は、着用者の健康状態を検査するための検査部材と、液透過性のトップシートを少なくとも含み、かつ前記検査部材よりも肌面側に配置されている表面側部材と、液不透過性のバックシートを少なくとも含み、かつ前記検査部材よりも肌面側に配置されている裏面側部材と、を備える。前記検査部材は、前記表面側部材を通過した排泄物を接触させる接

触部と、前記排泄物に含まれる対象成分に応じて前記着用者の健康状態を指示薬により表示する表示部と、を有する。前記表面側部材は、前記表示部の少なくとも一部を覆っている。前記表面側部材は、前記表示部が視認可能になるように前記裏面側部材から剥離可能である。

[0007] 本開示に係る包装体は、吸収性物品と、前記吸収性物品を個別に包装する包装シートと、着用者の健康状態を検査するための検査部と、を有する。前記検査部は、着用者の排泄物に含まれる対象成分に応じて前記着用者の健康状態を表示する。前記検査部は、前記包装シートと固定されている又は前記包装シートの一部である。

図面の簡単な説明

[0008] [図1]第１実施形態に係る吸収性物品を肌面側から見た平面図である。

[図2]図１に示すＦ２－Ｆ２線に沿った断面図である。

[図3]第１実施形態に係る吸収性物品を肌面側から見た平面図である。

[図4]第２実施形態に係る吸収性物品の断面図である。

[図5]第３実施形態に係る吸収性物品の断面図である。

[図6]第４実施形態に係る包装体の斜視図である。

[図7]第４実施形態に係る検査部の拡大斜視図である。

[図8]図７に示すＦ８－Ｆ８線に沿った断面図である。

[図9]第５実施形態に係る検査部の拡大斜視図である。

[図10]第５実施形態に係る検査部の使用状態を説明するための断面図である。

[図11]第６実施形態に係る検査部の使用状態を説明するための図である。

[図12]第７実施形態に係る検査部の斜視図である。

[図13]図１２に示すＦ１３－Ｆ１３線に沿った断面図である。

[図14]第８実施形態に係る検査部の斜視図である。

[図15]第９実施形態に係る検査部の斜視図である。

[図16]第１０実施形態に係る包装体の斜視図である。

[図17]第１１実施形態に係る包装体の斜視図である。

発明を実施するための形態

[0009] （１）実施形態の概要

本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

[0010] 一態様に係る吸収性物品は、着用者の健康状態を検査するための検査部材と、液透過性のトップシートを少なくとも含み、かつ前記検査部材よりも肌面側に配置されている表面側部材と、液不透過性のバックシートを少なくとも含み、かつ前記検査部材よりも肌面側に配置されている裏面側部材と、を備える。前記検査部材は、前記表面側部材を通過した排泄物を接触させる接触部と、前記排泄物に含まれる対象成分に応じて前記着用者の健康状態を指示薬により表示する表示部と、を有する。前記表面側部材は、前記表示部の少なくとも一部を覆っている。前記表面側部材は、前記表示部が視認可能になるように前記裏面側部材から剥離可能である。

[0011] 本態様によれば、吸収性物品が着用されている場合、着用者の排泄物は、表面側部材を通じて検査部材に到達し、検査部材（表示部）には、排泄物に含まれる対象成分に応じて着用者の健康状態が表示される。表面側部材が表示部の少なくとも一部を覆っているため、着用者は、吸収性物品を身体から外した後に、表面側部材を裏面側部材から剥離することで、表示部が露出するため、表示部を視認し易くなる。着用者は、露出した表示部を視認することで、健康状態を確認することができる。また、表面側部材は、前記検査部材よりも肌面側に配置されており、かつ着用者の健康状態を指示薬により表示する表示部の少なくとも一部を覆っている。これにより、着用者の肌に表面側部材（トップシート）が直接触れ易くなり、表示部に含まれる指示薬が肌に触れ難くなる。従って、吸収性物品が検査部材を備えていても、着用者の肌触りの悪化を抑制し易く、かつ指示薬による肌へのダメージを抑制し易くすることができる。

[0012] 好ましい一態様によれば、前記表面側部材には、厚さ方向において前記接触部と重なる開孔が形成されている。排泄物が、表面側部材を構成する繊維

等の隙間を通り抜けて接触部へ到達する場合、排泄物が開孔を通る場合と比べて、検査に必要な量の排泄物が接触部へ到達するまでに時間がかかったり、一部の排泄物が接触部へ到達できないことがある。そこで、表面側部材に接触部と重なる開孔を形成することで、排泄物が開孔を通ると接触部にすぐに到達するため、検査に必要な量の排泄物が素早く到達しやすくなる。短時間で検査に必要な排泄物を接触部に到達させることができ、検査時間を短縮しつつ、検査精度を向上できる。

[0013] 好ましい一態様によれば、前記表面側部材は、前記トップシートを含む複数のシートにより構成される。前記開孔は、前記複数のシートのうち一部のシートにのみ形成されている。複数のシートのうち、残りのシートが開孔（及び接触部）を覆っているため、検査部材が露出しない。これにより、検査精度を向上させつつも、検査部材が着用者の肌に触れることを確実に抑制できる。

[0014] 好ましい一態様によれば、前記接触部と前記表示部とは、異なる位置に配置されている。前記表示部は、前記厚さ方向において前記開孔と重ならない。対象成分に応じて反応する指示薬を含む表示部が開孔と重ならないことで、着用者の肌に表示部が直接接触しないため、指示薬による肌へのダメージを抑制できる。

[0015] 好ましい一態様によれば、前記表面側部材は、前記トップシートよりも非肌面側に配置される液不透過性シートを含む。前記開孔は、少なくとも前記液不透過性シートに形成されている。表面側部材が液不透過性シートを有していても、排泄物は、開孔を通じて液不透過性シートを通過することができる。これにより、検査部材に排泄物を到達させることができ、着用者の健康状態を表示部に表示できる。一方で、検査部材に到達した排泄物には、検査部材に含まれる指示薬が溶解する可能性がある。液不透過性シートは、開孔を除いて、排泄物を通過させないため、排泄物がトップシートへ戻ることを抑制できる。このため、排泄物に含まれる指示薬による着用者の肌へのダメージを抑制できる。

[0016] 好ましい一態様によれば、前記開孔は、前記表面側部材を貫通する貫通孔である。排泄物が、表面側部材を構成する繊維の隙間を通り抜けて接触部へ到達する場合、排泄物が開孔を通る場合と比べて、検査に必要な量の排泄物が接触部へ到達するまでに時間がかかったり、一部の排泄物が接触部へ到達できないことがある。そこで、表面側部材に貫通孔が形成されているため、排泄物が貫通孔を通り、接触部にすぐに到達できるため、検査に必要な量の排泄物が素早く到達しやすくなる。短時間で検査に必要な排泄物を接触部に到達させることができ、検査精度を向上できる。

[0017] 好ましい一態様によれば、前記裏面側部材は、前記表面側部材に含まれる液透過性シートよりも親水性又は繊維密度が高い親水性シートを含む。前記検査部材は、前記親水性シート上に配置されている。表面側部材に含まれる液透過性シートよりも裏面側部材に配置されている液透過性シートの方が親水性又は繊維密度が高いため、排泄物がトップシートへ戻ることを抑制できる。このため、排泄物に含まれる指示薬による着用者の肌への影響を抑制できる。

[0018] 一態様に係る包装体は、吸収性物品と、前記吸収性物品を個別に包装する包装シートと、着用者の健康状態を検査するための検査部と、を有する。前記検査部は、着用者の排泄物に含まれる対象成分に応じて前記着用者の健康状態を表示する。前記検査部は、前記包装シートと固定されている又は前記包装シートの一部である。

[0019] 本態様によれば、検査部は、吸収性物品と別部材であるため、吸収性物品の着用時に、指示薬により着用者の肌がダメージを受けることがない。

[0020] なお、着用者が、検査部材が取り付けられていない吸収性物品を着用し、当該吸収性物品を交換する際に、吸収性物品が付着した排泄物に対して検査部材を用いることが想定される。しかしながら、この場合には、着用者が検査部材を常に携帯しなければならないため、特に外出先では、着用者が健康状態を手軽に検査できないおそれがある。そこで、着用者が手軽に健康状態を検査できる包装体が望まれている。

[0021] 本態様によれば、着用者は、接触部が配置されている面と反対側の包装シートの面から排泄物へ、検査部（接触部）を接触させることにより、排泄物及び接触部に触れることなく、接触部へ排泄物を接触させることができる。このため、着用者は、衛生的に健康状態を検査することができる。

[0022] 好ましい一態様によれば、前記検査部は、前記健康状態を表示させるために前記排泄物を接触させる接触部を有する。前記接触部は、前記包装シートと厚さ方向で重なっている。着用者は、接触部が配置されている面と反対側の包装シートの面から排泄物へ、検査部（接触部）を接触させることにより、排泄物及び接触部に触れることなく、接触部へ排泄物を接触させることができる。このため、着用者は、衛生的に健康状態を検査することができる。

[0023] 好ましい一態様によれば、前記検査部は、前記健康状態を表示させるために前記排泄物を接触させる接触部を有する。前記検査部は、前記包装シートの端縁を跨ぐように配置されている。前記検査部は、前記包装体が開封された状態において前記包装シートの外側へ前記端縁から延出する延出部を有する。前記接触部は、前記延出部に配置されている。延出部は包装シートの外側へ延出しているため、着用者は、包装シートを把持した状態で、延出部に配置されている接触部を排泄物に接触させることで、排泄物からある程度の距離を保つことができる。このため、着用者は、排泄物及び接触部に触れることなく、接触部へ排泄物を接触させることができる。従って、着用者は、衛生的に健康状態を検査することができる。

[0024] 好ましい一態様によれば、前記検査部は、前記包装体を開封するために前記包装シートから剥がされるリードテープである。リードテープを検査部として用いるため、検査部として新たな部材を包装体へ追加せずにすむ。

[0025] 好ましい一態様によれば、前記検査部は、指示薬を含み、かつ前記排泄物に含まれる対象成分に応じて前記着用者の健康状態を前記指示薬により表示する表示部を有する。前記表示部の少なくとも一部は、撥水性を有する撥水部に覆われている。着用者が表示部を触ったとしても、撥水性を有する撥水部に覆われている部分に触れることで、着用者が、指示薬に直接触れること

を抑制できる。これにより、指示薬が肌にダメージを与え得るものであっても、着用者の安全性を高めることができる。

[0026] 好ましい一態様によれば、前記表示部が前記撥水部に覆われている状態で、前記健康状態を示す前記指示薬による呈色を視認可能である。表示部が撥水部に覆われていても、着用者は、指示薬による呈色を視認可能である。従って、着用者の安全性を高めつつ、表示部が示す健康状態を容易に把握することができる。

[0027] 好ましい一態様によれば、前記検査部は、前記健康状態を表示させるために前記排泄物を接触させる接触部を有する。前記接触部の一部は、撥水性を有する撥水部に覆われている。着用者が、意図せずに接触部に触れそうになったとしても、撥水性を有する撥水部に覆われている部分に触れることで、着用者の指などについた対象成分が、接触部に直接触れることを抑制できる。これにより、検査対象となる排泄物以外から、対称成分が接触部に触れることを抑制でき、検査精度を向上できる。

[0028] 好ましい一態様によれば、前記検査部は、前記接触部が固定されている本体部を有する。前記接触部は、前記本体部に固定される第１面と、前記第１面と反対側の面である第２面と、前記第１面と前記第２面とをつなぐ第３面と、を有する。前記第２面は、前記撥水部により覆われており、前記第３面の少なくとも一部は、前記撥水部から露出している。

接触部の第２面は、本体部に固定される第１面と反対側の面であるため、本体部から露出している部分である。従って、接触部の第２面は、着用者が触れ易い部分である。着用者が触れ易い部分を撥水部で覆うことで、着用者が、接触部に触れることを抑制でき、検査精度を向上できる。一方で、第１面と第２面とをつなぐ第３面は、着用者が触れ難い部分である。着用者が触れ難い部分を撥水部から露出させることで、対象成分を接触部に触れさせることができ、検査を行うことができる。

[0029] 好ましい一態様によれば、前記検査部は、前記包装シートの一部である。前記包装シートは、前記健康状態を表示させるために前記排泄物を接触させ

る接触部と、前記排泄物に含まれる対象成分に応じて前記着用者の健康状態を表示する表示部と、を有する。前記接触部及び前記表示部は、前記包装体の開封前において露出しておらず、かつ、前記包装体の開封により露出する。接触部及び表示部は、包装体の開封前において露出しておらず、かつ包装体の開封により露出するため、接触部及び表示部が、検査前に他のものに接触することを抑制でき、検査精度を向上できる。

[0030] （２）吸収性物品の概略構成

以下、図面を参照して、実施形態に係る吸収性物品の概略ついて説明する。吸収性物品は、生理用ナプキン、パンティライナー、失禁パッド、糞便パッドのような吸収性物品であってよい。吸収性物品は、下着のような着用物品の内側に取り付けられて使用される物品であってよい。本実施の形態の吸収性物品１は、生理用ナプキンである。

[0031] なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なる場合があることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれる場合がある。

[0032] 図１は、第１実施形態に係る吸収性物品を肌面側から見た平面図である。図２は、図１に示すＦ２－Ｆ２線に沿った断面図である。図３は、第１実施形態に係る吸収性物品を肌面側から見た平面図である。

[0033] なお、「肌面側」は、着用中（使用中）に着用者の肌に面する側に相当する。「非肌面側」は、着用中（使用中）に着用者の肌とは反対に向けられる側に相当する。

[0034] 図１及び図２に示すように、吸収性物品１は、前後方向Ｌ及び幅方向Ｗを有する。前後方向Ｌは、着用者の前側（腹側）から後側（背側）に延びる方向、又は着用者の後側から前側に延びる方向である。幅方向Ｗは、前後方向Ｌと直交する方向である。吸収性物品は、肌面側Ｔ１と非肌面側Ｔ２に延び

る厚さ方向Ｔを有する。

[0035] 吸収性物品１は、中央域Ｓ３、前側域Ｓ１及び後側域Ｓ２を有する。中央域Ｓ３は、着用者の排泄口（例えば膣口）に当接する排泄口当接部を有する領域である。吸収性物品が下着に装着されたときに、中央域Ｓ３は、下着の股下部に位置する。つまり、中央域は、着用者の股下、すなわち着用者の両足の間に配置される領域である。前側域Ｓ１は、中央域Ｓ３よりも前側に位置する。後側域Ｓ２は、中央域Ｓ３よりも後側に位置する。吸収性物品１は、例えば、吸収性物品１を前後方向Ｌに３等分に分けるように、前側域Ｓ１、後側域Ｓ２、中央域Ｓ３を有してよい。

[0036] 吸収性物品１は、検査部材２０と、表面側部材４０と、裏面側部材６０と、を備える。

[0037] 検査部材２０は、着用者の健康状態を検査するための部材である。検査部材２０の詳細は後述する。

[0038] 表面側部材４０は、液透過性のトップシートを少なくとも含み、かつ検査部材２０よりも肌面側Ｔ１に配置されている部材である。従って、着用者の肌に表面側部材（トップシート）が直接触れ易くなり、検査部材２０が肌に触れることを抑制できる。本実施の形態では、表面側部材４０は、トップシートのみにより構成されている。

[0039] 表面側部材（トップシート）４０は、不織布、織布、有孔プラスチックシート、メッシュシート等、液体を透過する構造を有する任意のシート状の材料から構成される。織布や不織布の素材としては、天然繊維、化学繊維のいずれも使用できる。

[0040] 裏面側部材６０は、液不透過性のバックシートを少なくとも含み、かつ検査部材２０よりも非肌面側Ｔ２に配置されている部材である。本実施の形態では、裏面側部材６０は、トップシートのみにより構成されている。

[0041] 裏面側部材（バックシート）６０は、ポリエチレンシート、ポリプロピレン等を主体としたラミネート不織布、通気性の樹脂フィルム、スパンボンド、又はスパンレース等の不織布に通気性の樹脂フィルムが接合されたシート

などを用いることができる。

[0042] 検査部材２０は、着用者の健康状態を指示薬により表示する。本実施の形態では、健康状態を検査するために、例えば、イムノクロマト法、又は試験紙法を用いることができる。

[0043] イムノクロマト法は、抗体を含む標識粒子が敷き詰められた部材（例えば、セルロース膜）上に、排泄物（例えば、血液など）を滴下することで行われる。排泄物中に、検査対象となる対象成分（抗原）が含まれている場合、当該対象成分と抗体とが抗原抗体反応を起こして複合体を形成する。形成された複合体は、毛細管現象によって膜上を移動する。複合体の移動先には、別種の抗体（指示薬）が線状に配置されている。複合体が、別種の抗体と結合して呈色する。呈色（色の変化）の有無により着用者の健康状態が示される。着用者は、呈色の有無を目視により判定することで健康状態を確認することができる。

[0044] 試験紙法は、検査部材２０に含まれる指示薬が、排泄物に含まれる対象成分と反応することにより呈色する。呈色（指示薬の色の変化）の有無により着用者の健康状態が示される。着用者は、指示薬による呈色（指示薬の色の変化）を目視により判定することで健康状態を確認することができる。

[0045] 排泄物は、例えば、血液、尿、大便、汗などが挙げられる。健康状態を示す項目は、例えば、体調関連（ｐＨ、鉄欠乏性貧血、腎機能、心筋梗塞、炎症・感染症、栄養状態評価など）、妊娠関連（生理周期予測、排卵予測など）、精神関連（鬱傾向、薬物など）が挙げられる。検査対象となる対象成分は、例えば、尿中老廃物（尿比重）、白血球、水素イオン（ｐＨ）、蛋白質、ブドウ糖、ケトン体、ウロビリノーゲン、ビリルビン、尿潜血、亜硝酸塩、ステロイド、ペプチド、芳香族化合物、ＦＳＨ（卵胞刺激ホルモン）、ＢＵＮ（Ｕｒｅａ ｎｉｔｏｒｏｇｅｎ）、ＡＩＢ（Ａｌｂｕｍｉｎ）、ＬＰＳ（リポ多糖）、ｈＣＧ（ヒト絨毛性ゴナドトロピン）、ＬＨ（黄体刺激ホルモン）、Ｕ－ＡＬＢ、ＣＲＰ（Ｃ－リアクディブ・プロテイン）、ミオグロビン、ＣＫ－ＭＢ、トロポニンＩ、トロポニンＴ、ヘモグロビン、ストレ

ップＡ、ＨＢｓ抗体、ＨＩＶ抗体、ＴＰ抗体、ロタウイルス、インフルエンザウイルス、アデノウイルス、ＤＮＡ、Ｏ－１５７、コカイン、マリファナ、モルヒネなどが一例として挙げられる。

[0046] 検査部材２０は、接触部２２と表示部２４とを有する。接触部２２は、排泄物を接触させる部分である。表示部２４は、排泄物に含まれる対象成分に応じて着用者の健康状態を表示する部分である。

[0047] 例えば、イムノクロマト法では、接触部２２は、抗体を含む標識粒子が配置されている領域を少なくとも含む。排泄物が接触部２２に触れることで、排泄物に含まれる対象成分（抗原）と抗体とが抗原抗体反応を起こして複合体を形成する。表示部２４は、複合体と結合して呈色する指示薬（別種の抗体）が配置されている領域を少なくとも含む。従って、イムノクロマト法が用いられる場合、接触部２２と表示部２４とは異なる位置に配置されている。一方、試験紙法では、接触部２２は、指示薬が配置されている領域を少なくとも含む。接触部２２に含まれる指示薬が対象成分と反応して呈色するため、接触部２２と表示部２４とが同じ位置に配置されている。従って、この場合、接触部２２と表示部２４とは、同一のものである。

[0048] 以上のように、試験紙法が用いられる場合、接触部２２、すなわち、表示部２４は、着用者の健康状態を表示するための指示薬を含む。イムノクロマト法が用いられる場合、接触部２２は、標識粒子を含み、表示部２４は、着用者の健康状態を表示するための指示薬を含む。なお、接触部２２は、排泄物（対象成分）を表示部２４へ誘導させるためにのみ設けられている場合、指示薬を含まなくてよい。

[0049] なお、指示薬は、対象成分又は対象成分を由来とする成分（例えば、複合体）と反応することにより呈色する化学物質（無機物、有機物）である。

[0050] 検査部材２０は、指示薬を保持できる部材であればよい。検査部材２０は、例えば、紙、不織布、織布などのいずれかの材料により構成できる。検査部材２０の剛性は、吸収性物品１に使用される部材の剛性以下であってよい。これにより、吸収性物品１が検査部材２０を備えていても、着用者の肌触

りの悪化を抑制し易くなる。図１等に示すように、検査部材３０は、例えば、直線状の板状であってよい。

[0051] 図１及び図２に示すように、表面側部材４０は、表示部２４の少なくとも一部を覆っている。図１及び図２に示すように、表面側部材４０は、表示部２４の全てを覆っている。表示部２４に含まれる指示薬が肌に触れ難くなり、指示薬による肌へのダメージを抑制できる。

[0052] 吸収性物品１が着用されている場合、着用者の排泄物は、表面側部材４０を通じて検査部材２０に到達し、検査部材２０（表示部２４）には、排泄物に含まれる対象成分に応じて着用者の健康状態が表示される。

[0053] ここで、表面側部材４０が表示部２４を覆っているため、着用者は、図１における吸収性物品１の状態では、表示部２４を視認することができない。しかしながら、図３に示すように、表面側部材４０は、表示部２４が視認可能になるように、裏面側部材６０から剥離可能である。従って、着用者は、吸収性物品１を身体から外した後に、表面側部材４０を裏面側部材６０から剥離することで、表示部２４が露出する。従って、着用者が表示部２４を視認し易くなる。着用者は、露出した表示部２４を視認することで、着用者の健康状態を確認することができる。また、着用者は、検査部材２０を携帯する必要がなく、例えば、外出先でも容易に確認可能である。

[0054] 表面側部材４０には、開孔４５が形成されている。本実施の形態では、開孔４５は、表面側部材４０を貫通する貫通孔である。開孔４５は、第１開孔４５１と第２開孔４５２とを有してよい。第１開孔４５１は、厚さ方向Ｔにおいて接触部２２と重なる開孔である。

従って、表面側部材４０には、厚さ方向Ｔにおいて接触部２２と重なる第１開孔４５１が形成されている。排泄物が第１開孔４５１を通ることで、表面側部材４０を構成する繊維等の隙間を通り抜ける場合と比べて、接触部２２へ到達し易くなる。このため、短時間で検査に必要な排泄物（対象成分）を接触部２２に到達させることができ、検査時間を短縮しつつ、検査精度を向上できる。

[0055] 図２に示すように、第１開孔４５１は、厚さ方向Ｔにおいて表面側部材４０を貫通する貫通孔であってよい。これにより、排泄物が固定物又は半固形物であり、表面側部材４０を拡散し難かったとしても、排泄物が接触部２２へ到達し易くなる。従って、検査に必要な排泄物（対象成分）を接触部２２に到達させることができ、検査精度を向上できる。

[0056] 表示部２４は、厚さ方向Ｔにおいて開孔４５と重なっていなくてよい。指示薬を含む表示部２４が開孔４５と重ならないことで、着用者の肌に表示部２４が直接接触しないため、指示薬による肌へのダメージを抑制できる。

[0057] 第２開孔４５２は、厚さ方向Ｔにおいて接触部２２と重ならない開孔である。第２開孔４５２は、検査部材２０と重ならない開孔であってよい。なお、第２開孔４５２を通った排泄物は、裏面側部材６０へ到達した後、裏面側部材６０上を移動し、接触部２２へ到達することができる。

[0058] 開孔４５は、着用者の排泄口に当接する位置に配置されてよい。従って、開孔４５は、中央域Ｓ３に配置されてよい。これにより、排泄物が、表面側部材４０を移動（拡散）しなくても開孔４５へ到達する。従って、排泄物が排泄された地点から開孔４５まで排泄物が移動することを省略できる。短時間で検査に必要な排泄物を接触部２２に到達させることができ、検査時間を短縮しつつ、検査精度を向上できる。

[0059] 検査部材２０は、前側域Ｓ１、後側域Ｓ２、中央域Ｓ３の少なくともいずれかに配置される。図１に示すように、検査部材２０は、後側域Ｓ２と中央域Ｓ３とに跨がって配置されてよい。接触部２２が、少なくとも中央域Ｓ３に位置し、表示部２４が、少なくとも後側域Ｓ２（又は前側域Ｓ１）に位置してよい。これにより、排泄口に当接する領域に、接触部２２が位置するため、排泄物が接触部２２に到達し易くなる。また、表示部２４が後側域Ｓ２（又は前側域Ｓ１）に配置することにより、吸収性物品１の前後方向Ｌの後端部（又は前端部）から表示部２４までの距離が短くなる。従って、着用者が、吸収性物品１の後端部（又は前端部）から表面側部材４０を剥離することで、表示部２４をすぐに露出させることができ、着用者が、表示部２４を

容易に視認できる。

[0060] 表面側部材４０と裏面側部材６０とが別部材であることにより剥離可能であってよい。図３に示すように、表面側部材４０と裏面側部材６０とを剥離可能とするために、吸収性物品１は、表面側部材４０と裏面側部材６０とを接合する接合部７０が設けられる接合領域ＢＲと、接合部７０が設けられない非接合領域ＮＢＲとを有してよい。接合部７０は、厚さ方向Ｔにおいて、表面側部材４０と裏面側部材６０との間に配置されてよい。

[0061] 図３に示すように、接合領域ＢＲ（すなわち、接合部７０）は、吸収性物品１の平面視において、吸収性物品１（表面側部材４０／裏面側部材６０）の外周部に配置されてよい。外周部は、吸収性物品１の前後方向Ｌの端部及び幅方向Ｗの端部により構成されてよい。なお、接合部７０は、外周部以外の領域に配置されてよい。

[0062] 非接合領域ＮＢＲは、吸収性物品１の前後方向Ｌの端部の少なくとも一部に配置されてよい。図３に示すように、非接合領域ＮＢＲは、吸収性物品１の前後方向Ｌの後端部に配置されてよい。着用者は、非接合領域ＮＢＲに指を入れて、表面側部材４０の肌面側Ｔ１と非肌面側Ｔ２とをつまんだ後に、表面側部材４０を裏面側部材６０から引き離すことで、表面側部材４０と裏面側部材６０とを容易に剥離することができる。また、非接合領域ＮＢＲは、吸収性物品１の後端部に配置することで、吸収性物品１の前側部分が排泄物で汚れていても、着用者が排泄物に触れずに表面側部材４０を裏面側部材６０から剥離することができる。

[0063] また、非接合領域ＮＢＲは、吸収性物品１の前後方向Ｌの前端部に配置されてよい。吸収性物品１が下着に取り付けられているケースでは、吸収性物品１を下着から外す際に、着用者は、視認し易い吸収性物品１の前側から外すことが多い。このため、非接合領域ＮＢＲは、吸収性物品１の前後方向Ｌの前端部に配置されている場合には、吸収性物品１を下着から外す際に、一方の手で吸収性物品１の前側部分を把持し、他方の手の指を非接合領域ＮＢＲに入れることができる。これにより、着用者が、表面側部材４０を剥離す

る作業を容易に行うことができる。

[0064] 従って、非接合領域ＮＢＲは、吸収性物品１の前後方向Ｌの前端部及び後端部の少なくとも一方に配置されてよい。非接合領域ＮＢＲは、吸収性物品１の前後方向Ｌの前端部及び後端部の両方に配置されてよい。

[0065] なお、接合領域ＢＲ（接合部７０）は、接着剤、又は圧力や熱によるエンボスシールなどの接合処理により設けられてよい。非接合領域ＮＢＲは、当該接合処理を行わないことで設けられてよい。

[0066] また、表面側部材４０が裏面側部材６０から剥離可能とするために、表面側部材４０と裏面側部材６０との少なくとも一部は、剥離可能な接合部７０によって接合されてよい。剥離可能な接合部７０は、前側域Ｓ１、後側域Ｓ２、中央域Ｓ３の少なくともいずれかに配置されてよい。例えば、当該接合部７０は、表示部２４が位置する領域にのみ配置されてよい。例えば、当該接合部７０は、後側域Ｓ２のみに配置されてよく、剥離不能な接合部７０が、前側域Ｓ１及び中央域Ｓ３に配置されてよい。これにより、着用者が、表示部２４をすぐに露出させることができ、着用者が、表示部２４を容易に視認できる。

[0067] 図２に示すように、検査部材２０は、厚さ方向Ｔにおいて表面側部材４０と裏面側部材６０との間に配置されている。従って、裏面側部材６０上に配置されている。

[0068] 検査部材２０は、接着剤等により、表面側部材４０と裏面側部材６０との両方に固定されなくてよい。これにより、表面側部材４０及び／又は裏面側部材６０を構成する繊維が検査部材３０に付着せずに、表面側部材４０を裏面側部材６０から剥離し易くすることができる。また、検査部材３０に繊維が付着しないため、表示部２４を視認し易い。

[0069] 或いは、検査部材２０は、表面側部材４０と裏面側部材６０との少なくとも一方に接合され、固定されてよい。これにより、第１開孔４５１から接触部２２がずれて、厚さ方向Ｔにおいて第１開孔４５１と重ならなくなることを抑制できる。例えば、検査部材２０は、例えば、ホットメルト型接着剤（

ＨＭＡ）により裏面側部材６０と接合されてよい。接着剤等により排泄物Ｅが接触部２２へ接触し難くなることを抑制するために、少なくとも接触部２４は、接合（固定）されなくてよい。また、表示部２４を視認し易くするため、少なくとも表示部２２は、表面側部材４０及び裏面側部材６０と接合（固定）されなくてよい。検査部材３０は、接触部２２及び表示部４４以外の部分の少なくとも一部により構成される固定部を有してよい。固定部上に塗布された接着剤により、表面側部材４０と裏面側部材６０との少なくとも一方と検査部材３０の固定部とが接合（固定）されてよい。これにより、接触部２２及び表示部４４を固定することなく、接触部２２がずれることを抑制できる。

[0070] （３）第２実施形態

次に、第２実施形態に係る吸収性物品１について図４を用いて説明する。図４は、第２実施形態に係る吸収性物品１の断面図である。なお、第１実施形態と同様の部分は、説明を省略する。

[0071] 図４に示すように、表面側部材４０は、第１表面側部材４２と第２表面側部材４４とを有してよい。第１表面側部材４２は、上述のトップシートと同様の材料から構成されてよい。従って、表面側部材４０は、トップシート（第１表面側部材４２）を含む複数のシートにより構成されよい。

[0072] 第２表面側部材４４は、第１表面側部材４２よりも非肌面側に配置される部材である。第２表面側部材４４は、液透過性シートであってよい。この場合、第２表面側部材４４は、トップシートと同様の材料から構成されてよい。第２表面側部材４４は、液不透過性シートであってよい。この場合、第２表面側部材４４は、上述のバックシートと同様の材料から構成されてよい。第１表面側部材４２と第２表面側部材４４とは、例えば、ホットメルト型接着剤（ＨＭＡ）により接接合されてよい。

[0073] 第１表面側部材４２には、開孔４５が形成されていない。一方で、第２表面側部材４４には、第１開孔４５１が形成されている。開孔４５は、表面側部材４０を構成する複数のシートのうち一部のシートにのみに形成されてい

る。これにより、第１表面側部材４２が第１開孔４５１及び接触部２２を覆っているため、検査部材２０が露出しない。これにより、検査部材が着用者の肌に直接触れることを確実に抑制できる。また、排泄物は、第１表面側部材４２を通り抜けた後は、第１開孔４５１を通ることで、接触部２２へ到達し易くなる。従って、検査時間の短縮及び検査精度の向上を図りつつ、着用者の肌触りの悪化及び指示薬による肌のダメージをより抑制できる。

[0074] 第２表面側部材４４が液不透過性シートである場合、第１開孔４５１は、液不透過性シートに形成されている。表面側部材４０が液不透過性シートを有していても、排泄物は、第１開孔４５１を通じて第２表面側部材４４（液不透過性シート）を通過することができる。これにより、検査部材２０（接触部２２）に排泄物を到達させることができ、着用者の健康状態を表示部２４に表示できる。一方で、検査部材２０に到達した排泄物には、検査部材２０に含まれる指示薬が溶解する可能性がある。第２表面側部材４４である液不透過性シートは、第１開孔４５１を除いて、排泄物を通過させないため、排泄物が第１表面側部材４２へ戻ることを抑制できる。従って、排泄物に含まれる指示薬による着用者の肌へのダメージを抑制できる。

[0075] 裏面側部材６０は、第１裏面側部材６２と第２裏面側部材６４とを有してよい。第１裏面側部材６２は、液透過性シートであってよく、上述のトップシートと同様の材料から構成されてよい。第１裏面側部材６２は、表面側部材４０に含まれる液透過性シートである第１表面側部材４２よりも親水性又は繊維密度が高いシート（親水性シート）であってよい。

[0076] 図４に示すように、検査部材２０は、第１裏面側部材６２上に配置されてよい。従って、検査部材２０は、第１裏面側部材６２と（直接）当接していてよい。第１表面側部材４２よりも第１裏面側部材６２の方が親水性又は繊維密度が高い場合、第１裏面側部材６２の方が排泄物を引き込む力が強い。従って、排泄物（対象成分）を検査部材２０へ短時間で到達させ易くなる。加えて、排泄物は、第１裏面側部材６２の方へ引き込まれ、第１表面側部材４２へ戻り難くなる。排泄物に指示薬が溶解したとしても、排泄物を第１裏

面側部材６２に維持することができる。排泄物に含まれる指示薬による着用者の肌への影響を抑制できる。

[0077] なお、繊維密度は、周知の方法で測定することができる。例えば、繊維密度は、対象部位を吸収性物品１から対象サンプルとして切り出し、対象サンプル単位面積当たりの質量（ｇ／ｍ2）を測定し、対象サンプルの厚さ（ｍ）を測定して、対象サンプル単位面積当たりの質量を対象サンプルの厚さで除することで算出することができる（ｇ／ｍ3）。単位面積当たりの繊維の質量は、例えば、対象サンプルの質量を直示天秤（例えば、研精工業株式会社製電子天秤ＨＦ－３００）で測定し、対象サンプルの面積を測定し、単位面積当たりの質量を算出してもよい。対象サンプルの厚さは、例えば、ミツトヨ（株）製のダイアルシックネスゲージＩＤ－Ｃ１０１２Ｃ又はそれと同等のものを使用し、接触子の面積を２０ｃｍ2、接触圧を３ｇｆ／ｃｍ2に設定して対象部位を加圧して測定したり、その他、目視で比較したり、吸収性物品１を長手方向に切った断面を撮影した画像を用いて比較したりしてもよい。

[0078] 親水性は、周知の方法で測定することができる。例えば、第１に、濾紙を５枚重ねて水平に置き、濾紙の上に測定対象の試験片をのせる。第２に、縦方向及び横方向のそれぞれにおいて２ｃｍ間隔で試験片に印を付す。ピペットで人工尿１滴（約０．０５ｇ）を２０箇所に滴下する。人工尿の滴下は、１分１０秒で２０カ所に行う。第３に、２０箇所滴下終了から３０秒放置した後、試験片に吸収されている箇所を数える。試験片の吸収箇所が多い程、親水性が高いものとする。（親水性の高い側では親水性が低い側に比べて液を吸収する力が強くなる。）

なお、第２裏面側部材６４は、上述のバックシートに対応し、上述のバックシートと同様の材料から構成されてよい。

[0079] （４）第３実施形態

次に、第３実施形態に係る吸収性物品１について図５を用いて説明する。図５は、第３実施形態に係る吸収性物品１の断面図である。なお、第１及び

第２実施形態と同様の部分は、説明を省略する。

[0080] 図５に示すように、吸収性物品１は、検査部材２０と厚さ方向Ｔにおいて重ならない第２開孔４５２を有してよい。第２開孔４５２は、表面側部材４０を貫通する貫通孔であってよい。これにより、排泄物は、第２開孔４５２を通ることで、第２開孔４５２が形成されていない場合と比べて、第１裏面側部材６２にまで短時間で到達することができる。

[0081] 第１裏面側部材６２が液透過性シートである場合、図５に示すように、第１裏面側部材６２を拡散して、検査部材２０（接触部２２）にまで到達することができる。ここで、吸収性物品１は、第２開孔４５２のみを有している場合、肌面側Ｔ１から視て、検査部材２０は露出してない。従って、着用者の肌に検査部材２０が直接接触しないため、着用者の肌触りの悪化を抑制でき、かつ指示薬による肌へのダメージを抑制できる。

[0082] （５）第４実施形態

次に、第４実施形態に係る包装体について説明する。なお、上述の実施形態と同様の部分は、説明を省略する。また、包装体は上記第１実施形態～第３実施形態に記載した吸収性物品とは異なる、検査部材を有していない吸収性物品を包装する包装体であってもよい。

[0083] 図６は、第４実施形態に係る包装体１００の斜視図である。図７は、第４実施形態に係る検査部１３０の拡大斜視図である。図８は、図７に示すＦ８－Ｆ８線に沿った検査部の断面図であり、検査部の使用状態を説明するための図である。

[0084] 図６に示すように、包装体１００は、互いに直交する長手方向Ｘ、幅方向Ｙ、厚さ方向Ｚを有してよい。長手方向Ｘは、包装体１００（後述する包装シート１２０）の長さを規定する方向であってよい。幅方向Ｙは、包装体１００（包装シート１２０））の幅を規定する方向であってよい。厚さ方向Ｚは、包装体１００（包装シート１２０）の厚さを規定する方向であってよい。

[0085] 図６に示すように、包装体１００は、吸収性物品１１０と、包装シート１

２０と、検査部１３０とを有する。

[0086] 吸収性物品１１０は、着用者の排泄物を吸収可能な物品である。吸収性物品１１０は、生理用ナプキン、パンティライナー、失禁パッド、糞便パッドのような吸収性物品であってよい。吸収性物品は、下着のような着用物品の内側に取り付けられて使用される物品であってよい。本実施の形態の吸収性物品１１０は、生理用ナプキンである。

[0087] 包装シート１２０は、吸収性物品１１０を個別に包装するシートである。吸収性物品１１０の使用時に包装シート１２０が外されることにより、吸収性物品１１０が露出し、使用可能となる。

[0088] 包装シート１２０は、例えば、不織布、織布、有孔プラスチックシート、メッシュシート等、任意のシート状の材料から構成されてよい。織布や不織布の素材としては、天然繊維、化学繊維のいずれも使用できる。

[0089] 図６に示すように、包装シート１２０は、包装シート１２０の長手方向Ｘの端縁である第１端縁１２１ｅと第２端縁１２２ｅとを有してよい（図１６の下図参照）。吸収性物品１１０が個別に包装された包装状態において、第１端縁１２１ｅは、包装体１００の外側に位置する端縁であってよく、第２端縁１２２ｅは、包装体１００の内側に位置する端縁であってよい。なお、包装体１００の内側とは、包装状態の包装体１００における厚さ方向Ｚの内側である。

[0090] 図６に示すように、包装シート１２０は、吸収性物品１１０が個別に包装された包装状態において、第１端縁１２１ｅを有する第１シート部分１２１と、第２端縁１２２ｅを有する第２シート部分１２２とを有してよい。第１シート部分１２１は、包装体１００の外側に位置してよく、第２シート部分１２２の一部は、包装体１００の内側に位置してよい。従って、第２シート部分１２２の一部は、第１シート部分１２１により厚さ方向Ｚにおいて覆われてよい。

[0091] 検査部１３０は、着用者の健康状態を検査するためのものである。検査部１３０は、着用者の排泄物に含まれる対象成分に応じて着用者の健康状態を

表示する。本実施の形態では、検査部１３０は、包装シート１２０と固定されている。従って、包装シート１２０と検査部１３０とは別体であることに留意すべきである。

[0092] ここで、着用者は、吸収性物品１１０を使用後に身体から外して、吸収性物品１１０を交換する。吸収性物品１１０を交換する際に、着用者は、新しい吸収性物品１１０を包装シート１２０から外して使用する。外された包装シート１２０には、検査部１３０が当該包装シート１２０と固定されているため、身体から外した吸収性物品１１０に付着した排泄物に対して当該検査部１３０を用いることができる。着用者は、検査部１３０を別途携帯する必要はないため、健康状態を手軽に検査できる。

[0093] 検査部１３０は、着用者の健康状態を指示薬により表示する。より詳細には、検査部１３０が有する反応部１４０において、着用者の健康状態を指示薬により表示する。本実施の形態では、健康状態を検査するために、例えば、イムノクロマト法、又は試験紙法を用いることができる。

[0094] イムノクロマト法は、抗体を含む標識粒子が敷き詰められた部材（例えば、セルロース膜）上に、排泄物（例えば、血液など）を滴下することで行われる。排泄物中に、検査対象となる対象成分（抗原）が含まれている場合、当該対象成分と抗体とが抗原抗体反応を起こして複合体を形成する。形成された複合体は、毛細管現象によって膜上を移動する。複合体の移動先には、別種の抗体（指示薬）が線状に配置されている。複合体が、別種の抗体と結合して呈色する。呈色（色の変化）の有無により着用者の健康状態が示される。着用者は、呈色の有無を目視により判定することで健康状態を確認することができる。

[0095] 試験紙法は、検査部１３０に含まれる指示薬が、排泄物に含まれる対象成分と反応することにより呈色する。呈色（指示薬の色の変化）の有無により着用者の健康状態が示される。着用者は、指示薬による呈色（指示薬の色の変化）を目視により判定することで健康状態を確認することができる。

[0096] 排泄物は、例えば、血液、尿、大便、汗などが挙げられる。健康状態を示

す項目は、例えば、体調関連（ｐＨ、鉄欠乏性貧血、腎機能、心筋梗塞、炎症・感染症、栄養状態評価など）、妊娠関連（生理周期予測、排卵予測など）、精神関連（鬱傾向、薬物など）が挙げられる。検査対象となる対象成分は、例えば、尿中老廃物（尿比重）、白血球、水素イオン（ｐＨ）、蛋白質、ブドウ糖、ケトン体、ウロビリノーゲン、ビリルビン、尿潜血、亜硝酸塩、ステロイド、ペプチド、芳香族化合物、ＦＳＨ（卵胞刺激ホルモン）、ＢＵＮ（Ｕｒｅａ　ｎｉｔｏｒｏｇｅｎ）、ＡＩＢ（Ａｌｂｕｍｉｎ）、ＬＰＳ（リポ多糖）、ｈＣＧ（ヒト絨毛性ゴナドトロピン）、ＬＨ（黄体刺激ホルモン）、Ｕ－ＡＬＢ、ＣＲＰ（Ｃ－リアクディブ・プロテイン）、ミオグロビン、ＣＫ－ＭＢ、トロポニンＩ、トロポニンＴ、ヘモグロビン、ストレップＡ、ＨＢｓ抗体、ＨＩＶ抗体、ＴＰ抗体、ロタウイルス、インフルエンザウイルス、アデノウイルス、ＤＮＡ、Ｏ－１５７、コカイン、マリファナ、モルヒネなどが一例として挙げられる。

[0097] 反応部１４０（検査部１３０）は、接触部１４２を有する。接触部１４２は、健康状態を表示させるために排泄物を接触させる部分である。反応部１４０（検査部１３０）は、後述するように、表示部１４４を有してよい。表示部１４４は、排泄物に含まれる対象成分に応じて着用者の健康状態を指示薬により表示する部分である。

[0098] 例えば、イムノクロマト法では、接触部１４２は、抗体を含む標識粒子が配置されている領域を少なくとも含む。排泄物が接触部１４２に触れることで、排泄物に含まれる対象成分（抗原）と抗体とが抗原抗体反応を起こして複合体を形成する。表示部１４４は、複合体と結合して呈色する指示薬（別種の抗体）が配置されている領域を少なくとも含む。従って、イムノクロマト法が用いられる場合、接触部１４２と表示部１４４とは異なる位置に配置されている。一方、試験紙法では、接触部１４２は、指示薬が配置されている領域を少なくとも含む。接触部１４２に含まれる指示薬が対象成分と反応して呈色するため、接触部１４２と表示部１４４とが同じ位置に配置されている。従って、この場合、接触部１４２と表示部１４４とは、同一のもので

ある。

[0099] 以上のように、試験紙法が用いられる場合、接触部１４２、すなわち、表示部１４４は、着用者の健康状態を表示するための指示薬を含む。イムノクロマト法が用いられる場合、接触部１４２は、標識粒子を含み、表示部１４４は、着用者の健康状態を表示するための指示薬を含む。なお、接触部１４２は、排泄物（対象成分）を表示部１４４へ誘導させるためにのみ設けられている場合、指示薬を含まなくてよい。

[0100] なお、指示薬は、対象成分又は対象成分を由来とする成分（例えば、複合体）と反応することにより呈色する化学物質（無機物、有機物）である。

[0101] 検査部１３０は、指示薬を保持できる部材であればよい。本実施の形態では、検査部１３０は、包装シート１２０に固定可能な部材であればよい。検査部１３０は、例えば、紙、不織布、織布、樹脂フィルムなどのいずれかの材料により構成されてよい。

[0102] 検査部１３０は、反応部１４０を支持する本体部１３２を有してよい。本体部１３２上に反応部１４０が固定されてよい。すなわち、本体部１３２上に反応部１４０は設けられてよい。検査部１３０は、包装体１００を開封するために包装シートから剥がされるリードテープであってよい。より詳細には、本体部１３２がリードテープとしての機能を有する。リードテープを検査部１３０として用いるため、検査部１３０として新たな部材を包装体１００へ追加せずに済む。これにより、包装体１００が検査部１３０を有していても、包装体１００の生産効率を低減せずに済む。

[0103] なお、検査部１３０（リードテープ）は、粘着部（不図示）により包装シート１２０に固定されている。

[0104] 図６及び図７に示すように、接触部１４２（反応部１４０）は、厚さ方向Ｚにおいて包装シート１２０と重なってよい。より詳細には、接触部１４２が厚さ方向Ｚにおいて包装シート１２０と重なる領域において、検査部１３０は、包装シート１２０と固定されてよい。これにより、図８に示すように、着用者は、接触部１４２が配置されている面と反対側の包装シート１２０

の面から排泄物Ｅへ、検査部１３０（接触部１４２）を接触させることができる。この場合、着用者の指が排泄物Ｅに触れることなく、接触部１４２へ排泄物Ｅを接触させることができる。このため、着用者は、衛生的に健康状態を検査することができる。また、着用者の指が接触部１４２へ触れないため、排泄物Ｅ以外の対象成分（具体的には、指に付着している対象成分）に指示薬が反応せず、検査精度を向上できる。

[0105] 図６及び図７に示されるように、検査部１３０は、包装シート１２０（すなわち、第１シート部分１２１）の第１端縁１２１ｅを跨ぐように配置されてよい。従って、検査部１３０は、第１シート部分１２１と第２シート部分１２２とに跨がって配置されてよい。また、検査部１３０（本体部１３２）は、包装シート１２０に固定されている固定部１３２ａと、包装体１００が開封された開封状態において包装シート１２０の外側へ第１端縁１２１ｅから延出する延出部１３２ｂとを有してよい（図８参照）。包装状態では、固定部１３２ａが、第１シート部分１２１上に配置され、延出部１３２ｂが第２シート部分１２２上に配置されてよい。本実施の形態では、検査部１３０は、固定部１３２ａにおいて反応部１４０（接触部１４２）を有する。

[0106] ここで、検査部１３０が、リードテープである場合、着用者は、延出部１３２ｂを把持して、包装体１００を開封することがある。従って、固定部１３２ａに反応部１４０が存在することにより、着用者の指が接触部１４２へ触れ難くなる。着用者の指が接触部１４２へ触れないことにより、排泄物Ｅ以外の対象成分（具体的には、指に付着している対象成分）に指示薬が反応せず、検査精度を向上できる。

[0107] なお、本体部１３２は、長手方向Ｘにおける本体部１３２の端部が折り返されている折り返し部１３４を有してよい。これにより、着用者は、折り返し部１３４を把持することにより、リードテープ（検査部１３０）を剥離し易くできる。

[0108] （６）第５実施形態

次に、第５実施形態に係る包装体１００について、図９及び図１０を用い

て説明する。図９は、第５実施形態に係る検査部１３０の断面図である。図１０は、第５実施形態に係る検査部１３０の使用状態を説明するための断面図である。なお、上述の実施形態と同様の部分は、説明を省略する。

[0109] 第５実施形態では、接触部１４２（反応部１４０）は、延出部１３２ｂに配置されている。この場合、図１０に示すように、延出部１３２ｂは包装シート１２０の外側へ延出しているため、着用者は、包装シート１２０を把持した状態で、延出部１３２ｂに配置されている接触部１４２を排泄物Ｅに接触させることができる。これにより、着用者の指が、排泄物Ｅからある程度の距離を保つことができる。このため、着用者は、排泄物Ｅ及び接触部１４２に触れることなく、接触部１４２へ排泄物Ｅを接触させることができる。従って、着用者は、衛生的に健康状態を検査することができる。

[0110] （７）第６実施形態

次に、第６実施形態に係る包装体１００について、図１１を用いて説明する。図１１は、第６実施形態に係る検査部１３０の使用状態を説明するための図である。なお、上述の各実施形態と同様の部分は、説明を省略する。

[0111] 図１１に示すように、検査部１３０（反応部１４０）は、表示部１４４を有する。表示部１４４は、厚さ方向Ｚにおいて、本体部１３２と包装シート１２０との間に配置されている。すなわち、表示部１４４の一方の主面である第１面１４４ａは、本体部１３２に覆われており、表示部１４４の他方の主面である第２面１４４ｂは、包装シート１２０（第１シート部分１２１）に覆われている。従って、表示部１４４は、露出していない。これにより、着用者が意図せずに表示部１４４に触れそうになったとしても、本体部１３２又は包装シート１２０に覆われている部分に触れることで、着用者が、指示薬に直接触れることを抑制できる。これにより、指示薬が肌にダメージを与え得るものであっても、着用者の安全性を高めることができる。

[0112] また、表示部１４４が、本体部１３２及び包装シート１２０に覆われている状態で、健康状態を示す指示薬による呈色を視認可能であってよい。これにより、表示部１４４が本体部１３２及び包装シート１２０に覆われていて

も、着用者は、指示薬による呈色を視認可能である。従って、着用者の安全性を高めつつ、表示部１４４が示す健康状態を容易に把握することができる。

[0113] 例えば、本体部１３２は、透過性又は半透過性を有し、着用者は、本体部１３２を介して呈色を視認可能であってよい。本体部１３２は、無色透明であってよい。これにより、呈色を視認し易くなる。また、包装シート１２０は、透過性又は半透過性を有し、着用者は、包装シート１２０を介して呈色を視認可能であってよい。包装シート１２０は、無色透明であってよい。これにより、呈色を視認し易くなる。

[0114] なお、本発明における「視認可能」とは、昼白色（色温度目安　４６００～５４００　Ｋ（ケルビン））で明るく照明された室内(目安：５００～７５０　ｌｘ（ルクス））で約３０～５０ｃｍの距離で、良好な視力（１．０以上）を両眼に有する被験者が対象物を見たときに視認できる事を意味している。

[0115] なお、本実施の形態では、第１面１４４ａは、本体部１３２に固定されている面であり、第２面１４４ｂは、包装シート１２０に固定されている面である。第１面１４４ａ側から指示薬による呈色を視認可能であってよい。第１面１４４ａ側の表示部１４４は、第２面１４４ｂ側の表示部１４４よりも指示薬を多く含んでいてもよい。従って、第１面１４４ａ側の方が第２面１４４ｂ側の方よりも指示薬による呈色を視認し易くてよい。指示薬による呈色を第１面１４４ａ側でのみ視認可能であってよい。これにより、図１１に示すように、着用者は、排泄物Ｅを付ける面と反対側（本体部１３２側）の面から呈色を視認できるため、排泄物Ｅの付着による視認の阻害を抑制できる。これにより、呈色をより正確に確認できる。

[0116] また、第２面１４４ｂ側から指示薬による呈色を視認可能であってよい。第２面１４４ｂ側の表示部１４４は、第１面１４４ａ側の表示部１４４よりも指示薬を多く含んでいてもよい。従って、第２面１４４ｂ側の方が第１面１４４ａ側の方よりも指示薬による呈色を視認し易くてよい。指示薬による

呈色を第２面１４４ｂ側でのみ視認可能であってよい。これにより、露出している本体部１３２が汚れたとしても、包装状態において露出していない第２面１４４ｂ側から呈色を視認できるため、呈色をより正確に確認できる。

[0117] なお、図１１に示すように、接触部１４２の少なくとも一部は、排泄物Ｅに接触させやすくするために、開封状態において、包装シート１２０の第１端縁１２１ｅから露出してよい。

[0118] 本体部１３２及び包装シート１２０の少なくとも一方は、後述する撥水部１５０と同様に、撥水性を有してよい。

[0119] （８）第７実施形態

次に、第７実施形態に係る包装体１００について、図１２及び図１３を用いて説明する。図１２は、第７実施形態に係る検査部１３０の斜視図である。図１３は、図１２に示すＦ１３－Ｆ１３線に沿った断面図である。なお、上述の各実施形態と同様の部分は、説明を省略する。

[0120] 図１２及び図１３に示すように、検査部１３０は、接触部１４２と表示部１４４とを有する。接触部１４２の一部は、撥水部１５０に覆われている。

[0121] 着用者が意図せずに接触部１４２に触れそうになったとしても、撥水性を有する撥水部１５０に覆われている部分に触れることで、着用者の指などについた対象成分が、接触部１４２に直接触れることを抑制できる。これにより、検査対象となる排泄物以外から、対称成分が接触部１４２に触れることを抑制でき、検査精度を向上できる。

[0122] 本実施の形態では、検査部１３０は、反応部１４０（接触部１４２と表示部１４４）が固定されている本体部１３２を有する。図１３に示すように、接触部１４２は、第１面１４２ａと第２面１４２ｂと、第３面１４２ｃと、を有してよい。第１面１４２ａは、本体部１３２に固定される面である。第２面１４２ｂは、第１面１４２ａと反対側の面である。第３面１４２ｃは、第１面１４２ａと第２面１４２ｂとをつなぐ面である。

[0123] 第２面１４２ｂは撥水部１５０により覆われている。第３面１４２ｃの少なくとも一部は、撥水部１５０から露出している。例えば、撥水スプレー、

コーティング装置などにより、接触部１４２の一部に撥水剤を付着（塗布）する撥水加工することにより、撥水部１５０が設けられてよい。検査部１３０の本体部１３２を構成する部材を、撥水剤に含浸してもよい。撥水剤を付着させたくない部分（例えば、接触部１４２（の一部））は、マスキングテープ等により覆っていてよい。反応部１４０（接触部１４２）の一部を撥水部１５０により覆った後にマスキングテープ等を剥がすことにより、接触部１４２を露出させてよい。第２面１４２ｂは、撥水性を有する部材により覆われてよい。

[0124] 撥水剤は、シリコン系撥水剤でもよく、フッ素系撥水剤でもよい。撥水剤（撥水部１５０）は、変色し難いものであることが好ましい。撥水剤（撥水部１５０）は、透過性又は半透過性を有するものであってよい。撥水剤（撥水部１５０）は、表示部１４４を覆う場合には、呈色を視認し易くするために、無色透明であるものを用いてよい。

[0125] 接触部１４２の第２面１４２ｂは、本体部１３２に固定される第１面１４２ａと反対側の面であるため、本体部１３２から露出している部分である。従って、接触部１４２の第２面１４２ｂは、着用者が触れ易い部分である。着用者が触れ易い部分を撥水部１５０で覆うことで、着用者が、接触部１４２に触れることを抑制でき、検査精度を向上できる。一方で、第１面１４２ａと第２面１４２ｂとをつなぐ第３面１４２ｃは、着用者が触れ難い部分である。着用者が触れ難い部分を撥水部１５０から露出させることで、対象成分を接触部１４２に触れさせることができ、検査を行うことができる。

[0126] 本実施の形態では、第３面１４２ｃの露出面は、本体部１３２の幅方向の外側縁側に位置してよい。第３面１４２ｃが撥水部１５０に覆われている非露出面は、本体部１３２の長手方向の端部側に位置してよい。

[0127] なお、表示部１４４も、接触部１４２と同様に、第１面１４４ａと、第２面１４４ｂと、第３面１４４ｃと、を有してよい。これにより、着用者が、表示部１４４に含まれる指示薬に直接触れることを抑制できる。これにより、指示薬が肌にダメージを与え得るものであっても、着用者の安全性を高め

ることができる。また、表示部１４４が、撥水部１５０に覆われている状態で、健康状態を示す指示薬による呈色を視認可能であってよい。これにより、表示部１４４が撥水部１５０に覆われていても、着用者は、指示薬による呈色を視認可能である。従って、着用者の安全性を高めつつ、表示部１４４が示す健康状態を容易に把握することができる。

[0128] （９）第８実施形態

次に、第８実施形態に係る包装体１００について、図１４を用いて説明する。図１４は、第８実施形態に係る検査部１３０の斜視図である。なお、上述の各実施形態と同様の部分は、説明を省略する。

[0129] 図１４に示すように、第３面１４２ｃの露出面は、本体部１３２の幅方向Ｙの外側縁側だけでなく、本体部１３２の長手方向Ｘの端部側にも位置してよい。これにより、第３面１４２ｃの露出面積が増加するため、より短時間で検査を行うことができる。一方で、第２面１４２ｂは、撥水部１５０に覆われているため、着用者が、接触部１４２に触れることを抑制でき、検査精度を向上できる。

[0130] （１０）第９実施形態

次に、第９実施形態に係る包装体１００について、図１５を用いて説明する。図１５は、第９実施形態に係る検査部１３０の斜視図である。なお、上述の各実施形態と同様の部分は、説明を省略する。

[0131] 図１５に示すように、第３面１４２ｃの露出面は、本体部１３２の長手方向Ｘの端部側に位置してよい。一方で、第３面１４２ｃが撥水部１５０に覆われている非露出面は、本体部１３２の幅方向Ｙの外側縁側に位置してよい。これにより、着用者が、検査部１３０（本体部１３２）の幅方向Ｙの外側縁を把持したとしても、着用者が、接触部１４２に触れることを抑制できるため、検査精度を向上できる。

[0132] 本体部１３２の長手方向Ｘの中心側に位置する反応部１４０の長手方向Ｘの端部は、撥水部１５０により覆われてもよく、覆われてなくてもよい。

[0133] （１１）第１０実施形態

次に、第１０実施形態に係る包装体１００について、図１６を用いて説明する。図１６は、第１０実施形態に係る包装体１００の斜視図である。図１６の上図は、包装体１００が開封される前の状態を示し、図１６の下図は、包装体１００が開封された状態を示す。なお、上述の各実施形態と同様の部分は、説明を省略する。

[0134] 上述の実施形態では、検査部１３０は、包装シート１２０と固定されていた。本実施の形態では、検査部１３０は、包装シート１２０の一部である。従って、包装シート１２０が、反応部１４０（接触部１４２及び表示部１４４）を有する。

[0135] 図１６の上図に示すように、反応部１４０（接触部１４２及び表示部１４４）は、包装体１００の開封前において、露出していない。一方で、図１６の下図に示すように、反応部１４０は、包装体１００の開封により露出する。これにより、反応部１４０が、検査前において他のものに接触することを抑制でき、検査精度を向上できる。また、検査前において指示薬が他のものに触れにくくなり、指示薬が他のものに付着し難くすることができる。従って、着用者の安全性を高めることができる。

[0136] 図１６に示すように、包装シート１２０上に反応部１４０（検査部１３０）が設けられてもよい。従って、検査部１３０が、包装シート１２０の一部となっている。本実施の形態では、検査部１３０は、第１シート部分１２１の一部となってよい。開封前（包装状態）において第１シート部分１２１の露出していない面に検査部１３０が配置されてよい。

[0137] 反応部１４０は、開封前において、包装シート１２０（すなわち、第１シート部分１２１と第２シート部分１２２と）の間に挟まれるように配置されていてよい。これにより、吸収性物品１１０に指示薬が付着することを抑制でき、着用者の安全性を高めることができる。

[0138] なお、検査部１３０を包装シート１２０（本実施の形態では、第１シート部分１２１）の一部とするため、着用者の健康状態を表示するための指示薬を包装シート１２０に塗布してもよく、指示薬を構成する溶液に包装シート

１２０を含浸してもよい。

[0139] （１２）第１１実施形態

次に、第１１実施形態に係る包装体１００について、図１７を用いて説明する。図１７は、第１１実施形態に係る包装体１００の斜視図である。図１７は、包装体１００が開封された状態を示す。なお、上述の各実施形態と同様の部分は、説明を省略する。

[0140] 図１７に示すように、包装シート１２０には、包装シート１２０の一部を検査部１３０とするためのミシン目１２５が形成されてもよい。着用者は、ミシン目１２５を切断することにより、検査部１３０を取得できてもよい。

[0141] 反応部１４０は、吸収性物品１１０に対向せずに、包装シート１２０に対向するように配置されてもよい。本実施の形態では、検査部１３０は、第２シート部分１２２の一部となってよい。開封前（包装状態）において第２シート部分１２２の露出していない面に検査部１３０が配置されてよい。開封前において第１シート部分１２１の露出していない面に対向するように、検査部１３０が配置されてよい。これにより、吸収性物品１１０に指示薬が付着することを抑制でき、着用者の安全性を高めることができる。

[0142] なお、図１７（及び図１６）では、包装体１００は、リードテープを有しているが、包装体１００は、リードテープを有さなくてよい。第１シート部分１２１の第１端縁１２１ｅを含む長手方向Ｘの端部は、例えば、接着剤又はヒートシールなどにより接合されてよい。これにより、包装体１００の開封口は、封止されてよい。

[0143] （１３）その他実施形態

以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とするものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

[0144] 上述の第２実施形態では、第１裏面側部材６２は、第１表面側部材４２よりも親水性又は繊維密度が高いシート（親水性シート）であってよかったが、これに限られない。第１裏面側部材６２は、表面側部材４０の全ての液透過性シートよりも親水性又は繊維密度が高くてよい。これにより、排泄物は、第１裏面側部材６２の方へ引き込まれ、表面側部材４０へ戻り難くなるため、排泄物に含まれる指示薬による着用者の肌への影響を抑制できる。

[0145] また、第１裏面側部材６２は、第１表面側部材４２よりも親水性又は繊維密度が高いシート（親水性シート）である場合、表面側部材４０を構成する全てのシートが液透過性シートであってよい。表面側部材４０が液不透過性シートを含む場合と比べて、排泄物が拡散により裏面側部材６０にまで到達し易い。裏面側部材６０にまで到達した排泄物は、第１裏面側部材６２を拡散して接触部２２へ到達できる。従って、検査時間の短縮及び検査精度の向上を図りつつ、着用者の肌触りの悪化及び指示薬による肌のダメージをより抑制できる。

[0146] また、上述の第２実施形態において、表面側部材４０には、表面側部材４０を貫通する第２開孔４５２を有してよい。これにより、検査部材２０を露出させずに、開孔４５（第１開孔４５１及び第２開孔４５２）によって排泄物を接触部２２へさらに到達し易くできる。

[0147] 上述の各実施形態では、第１表面側部材４２は、１又は２のシートにより構成されていたが、これに限られない。第１表面側部材４２は、３以上のシートにより構成されてよい。例えば、第１表面側部材４２は、２つの液透過性シート（第１及び第３表面側部材）によって液不透過性シート（第２表面側部材）が厚さ方向Ｔにおいて挟まれた３層のシートにより構成されてよい。これにより、液不透過性シート（第２表面側部材）よりも非肌面側に配置されている液透過性シート（第３表面側部材）を排泄物が拡散する。検査部材２０の肌面側Ｔ１からも排泄物が接触し易くなる。液不透過性シートにより排泄物に含まれる指示薬による着用者の肌へのダメージを抑制しつつ、短時間で検査に必要な排泄物（対象成分）を接触部２２に到達させることがで

きる。なお、表面側部材４０が液不透過性シートを含む場合には、少なくとも液不透過性シートには、液不透過性シートよりも非肌面側Ｔ２へ排泄物を移動させるために開孔が形成されている。

[0148] また、表面側部材４０と同様に、裏面側部材６０は、３以上のシートにより構成されてよい。例えば、裏面側部材６０が、表面側部材に含まれる液透過性シートよりも親水性又は繊維密度が高い親水性シートを含む場合、親水性シートは、検査部材２０上に配置されてなくてよい。すなわち、親水性シートは、検査部材２０と当接しなくてよい。厚さ方向Ｔにおいて当該親水性シートと検査部材２０との間に液透過性シートが配置されていてもよい。親水性シートは、液透過性シートを介して排泄物を引き込むことにより、排泄物を表面側部材４０へ戻り難くしてもよい。

[0149] 上述の実施形態において、表面側部材４０を裏面側部材６０から剥離する場合、裏面側部材６０を固定して表面側部材４０を裏面側部材６０から剥がしてよい。また、表面側部材４０を固定して裏面側部材６０を表面側部材４０から剥がしてよい。結果として、表面側部材４０を裏面側部材６０から剥離することができる。

[0150] 上述の実施形態では、検査部材２０は、直線状の板状であった。本実施形態では、検査部材２０は、例えば、１以上の折り目を有してよい。従って、検査部材２０は、例えば、２つ折り又は３つ折りの形状であってよい。検査部材２０は、Ｚ型に折り畳まれた部材により構成されてよい。これにより、検査部材２０をコンパクトな状態で、吸収性物品１の内部へ配置することができる。検査部材２０の面積が小さくなるため、検査部材２０による着用者の肌触りの悪化を抑制し易くすることができる。

[0151] また、検査部材２０は、接触部２２が表面側部材４０又は裏面側部材６０の少なくとも一方に当接するように折られた状態で、配置されてよい。これにより、検査部材２０が折られていても、接触部２２に排泄物を到達し易くすることができる。

[0152] また、検査部材２０は、表示部２２が表面側部材４０又は裏面側部材６０

の少なくとも一方に当接するように折られた状態で、配置されてよい。これにより、検査部材２０が折られていても、着用者は、表面側部材４０を剥離するとすぐに表示部２２を視認することができる。これにより、着用者は、健康状態を容易に確認することができる。

[0153] また、検査部材２０は、粘着部を有する後処理テープ用のテープ部材が接触部２２及び表示部２４を有することにより構成されてよい。後処理テープ用のテープ部材としての検査部材２０が有する粘着部により、使用後の吸収性物品１を、肌当接面が露出しないように丸めた状態で固定してよい。当該テープ部材としての検査部材２０を用いることで、吸収性物品を衛生的に処分することができる。このように、着用者は、健康状態を検査した後に、検査部材２０を後処理テープ用のテープ部材として使用することができ、検査部材２０を有効活用できる。なお、後処理テープ用のテープ部材は、上述のようにＺ型に折り畳まれた形状であってよい。

[0154] なお、着用者は、表示部２４の呈色を示す呈色情報（画像情報及び／又は映像情報）をネットワーク（管理サーバ）へ送ることで、検査情報を取得してもよい。例えば、着用者は、表面側部材４０を裏面側部材６０から剥離した後、露出した表示部２４を、例えば、着用者（ユーザ）が所有する通信装置に内蔵されたカメラにより撮影することで呈色情報を取得してもよい。着用者は、呈色情報を通信装置を介して管理サーバへ送ることができる。着用者は、呈色情報と共に着用者の情報を示すユーザ情報を送ってもよい。ユーザ情報は、例えば、ユーザの識別子、通信装置の識別子、排泄物の種類を示す情報、吸収性物品１（検査部材２０）の種類を示す情報、対象成分を特定する情報などの少なくともいずれかである。

[0155] また、着用者は、検査部材２０を含む吸収性物品１又は検査部材２０そのものを、指示薬による呈色反応を検知可能である収容装置へ収容してよい。収容装置は、呈色反応を検知するために、可視光を表示部２４へ照射してよい。収容装置は、可視光と異なる特殊な波長を有する特殊光（例えば、可視光よりも短い波長を有する紫外線）を照射することで指示薬による呈色を確

認できる検査部材２０に対して、当該特殊な波長を有する光を表示部２４へ照射してよい。収容装置は、収容装置内において、可視光又は特殊光を照射しながら撮影することで呈色情報を取得してもよい。このように、収容装置内で、光を照射しながら表示部２４を撮影することで、周囲の環境の影響を受けずに、正確に呈色を確認することができる。

[0156] 収容装置は、表示部２４を撮影することにより取得した呈色情報をネットワーク（管理サーバ）へ送ってもよい。この場合、収容装置は、ユーザ情報として、収容装置の識別子を含めてもよい。また、収容装置は、取得した呈色情報を着用者が所有する通信装置へ送ってもよい。着用者は、表示部２４を通信装置へ表示することによって、呈色の有無を判定してもよい。これにより、着用者は、より正確に健康状態を確認できる。なお、着用者は、上述と同様に、収容装置から取得した呈色情報を通信装置を介してネットワークへ送ってもよい。

[0157] 管理サーバは、呈色情報（及びユーザ情報）に基づいて、着用者（ユーザ）の健康状態を判定することができる。管理サーバは、判定結果を示す情報を呈色情報の送信元である通信装置へ送信してもよい。管理サーバは、判定結果を示す判定情報と共に、判定結果に基づくアドバイスを示すアドバイス情報を当該通信装置へ送信してもよい。管理サーバは、収容装置から呈色情報を受け取った場合であっても、収容装置の識別子と関連付けられている通信装置の識別子（ユーザの識別子）に基づいて、関連付けられている通信装置（すなわち、ユーザが所有する通信装置）へ判定情報（及びアドバイス情報）を送信してもよい。

[0158] 通信装置は、通信装置により受信した判定情報に基づいて、判定結果を表示してよい。これにより、着用者は、表示された判定結果によって健康状態を把握することができる。着用者は、着用者自身の判定によるものではなく、客観的な判定結果を取得できる。また、通信装置は、アドバイス情報を受信した場合には、アドバイスを表示してよい。これにより、着用者は、アドバイスを把握することができる。

[0159] 通信装置は、上述した各種の処理を実行するためのプログラムを有する。通信装置は、プログラムを記憶するメモリ及びメモリに記憶されたプログラムを実行するプロセッサを有する。プログラムは、ネットワーク（例えば、管理サーバ）から取得可能であってよい。

[0160] 上述の実施の形態では、吸収性物品１は、生理用ナプキンであったが、これに限られない。吸収性物品１は、例えば、テープ型又はパンツ型の使い捨ておむつであってよい。

[0161] 上述の実施の形態では、検査部材２０は、後側域Ｓ２と中央域Ｓ３とに跨がって配置されていた。検査部材２０は、前側域Ｓ１、後側域Ｓ２、中央域Ｓ３のいずれかにのみ配置されてよい。これにより、検査部材２０が配置される領域を低減することで、着用者の肌触りの悪化を抑制してもよい。

[0162] 上述の実施形態において、中央域Ｓ３は、着用者の脚回りに配置される脚回り開口部が設けられた領域であってよい。脚回り開口部は、幅方向の内側に向かうにつれ、吸収性物品の外側縁から幅方向の内側に凹む部分である。或いは、吸収性物品１が、吸収コアを含む場合、中央域Ｓ３は、幅方向の内側に向かうにつれ、吸収コアの外側縁から幅方向の内側に凹む部分が設けられる領域であってよい。或いは、中央域Ｓ３は、周囲の吸収コアよりも厚い領域である中高部が配置されている領域であってよい。或いは、中央域Ｓ３は、吸収性物品１を下着へ止めるウイングが設けられる場合、ウイングが設けられる領域であってよい。

[0163] 上述において、反応部１４０（接触部１４２及び／又は表示部１４４）の一部が撥水部１５０により覆われていたが、これに限られない。反応部１４０は、例えば、着用者の指が、接触部１４２に触れたり、指示薬に触れたりすることを抑制できる部材であればよく、撥水性を有さない他の部材により覆われていてもよい。

[0164] 上述の第４から第９実施形態では、検査部１３０がリードテープとしての機能を有していたがこれに限られない。検査部１３０は、リードテープと異なるものであってよい。検査部１３０は、包装シート１２０（すなわち、第

１シート部分１２１）の第１端縁１２１ｅを跨がないように配置されてよい。例えば、検査部１３０は、厚さ方向Ｚにおいて、包装シート１２０の一方側に露出している第１シート部分１２１上のみに配置（固定）されてよい。これにより、着用者は、包装体１００を開封する前に、検査部１３０を容易に把握することができる。

[0165] また、例えば、検査部１３０は、包装シート１２０と別の部材である場合であっても、第１０実施形態と同様に、包装状態において、検査部１３０は、第１シート部分１２１の露出していない面上に配置（固定）されてよい。第１１実施形態と同様に、包装状態において、検査部１３０は、第１シート部分１２１の露出していない面に対向するように、第２シート部分１２２の露出していない面に配置（固定）されてよい。これにより、検査前において指示薬が他のものに触れにくくなり、指示薬が他のものに付着し難くすることができる。従って、着用者の安全性を高めることができる。また、検査部１３０も汚れが付着し難くなり、検査精度を向上できる。

[0166] 上述では、検査部１３０は、直線状の板状であった。本実施形態では、検査部１３０は、例えば、１以上の折り目を有してよい。従って、検査部１３０は、例えば、２つ折り又は３つ折りの形状であってよい。検査部１３０は、Ｚ型に折り畳まれた部材により構成されてよい。これにより、検査部１３０をコンパクトな状態で、包装シート１２０へ固定することができる。

[0167] また、検査部１３０は、反応部１４０が露出しないように折られた状態で、包装シート１２０に固定されてよい。これにより、使用前に排泄物Ｅ以外のものが、接触部１４２に触れることを抑制でき、検査精度を向上できる。また、検査部材が折られている場合、使用前において、折られた検査部材を伸ばす（広げる）ことができる。これにより、着用者が検査部１３０を把持する位置を、排泄物Ｅから遠ざけた状態で、検査部１３０を排泄物Ｅに接触させることができる。着用者に排泄物Ｅが付着し難くなり、着用者は、衛生的に健康状態を検査することができる。

[0168] また、検査部１３０は、粘着部を有する後処理テープ用のテープ部材が反

応部１４０を有することにより構成されてよい。後処理テープ用のテープ部材としての検査部１３０が有する粘着部により、使用後の吸収性物品を、肌当接面が露出しないように丸めた状態で固定してよい。当該テープ部材としての検査部１３０を用いることで、吸収性物品を衛生的に処分することができる。このように、着用者は、健康状態を検査した後に、検査部１３０を後処理テープ用のテープ部材として使用することができ、検査部１３０を有効活用できる。なお、後処理テープ用のテープ部材は、上述のようにＺ型に折り畳まれた形状であってよい。

[0169] なお、着用者は、表示部１４４の呈色を示す呈色情報（画像情報及び／又は映像情報）をネットワーク（管理サーバ）へ送ることで、検査情報を取得してもよい。例えば、着用者は、排泄物Ｅへ付着させることにより呈色した検査部１３０（表示部１４４）を、例えば、着用者（ユーザ）が所有する通信装置に内蔵されたカメラにより撮影することで呈色情報を取得してもよい。着用者は、呈色情報を通信装置を介して管理サーバへ送ることができる。着用者は、呈色情報と共に着用者の情報を示すユーザ情報を送ってもよい。ユーザ情報は、例えば、ユーザの識別子、通信装置の識別子、排泄物の種類を示す情報、吸収性物品１１０（検査部１３０）の種類を示す情報、対象成分を特定する情報などの少なくともいずれかである。

[0170] また、着用者は、検査部１３０を、指示薬による呈色反応を検知可能である収容装置へ収容してよい。収容装置は、呈色反応を検知するために、可視光を表示部１４４へ照射してよい。収容装置は、可視光と異なる特殊な波長を有する特殊光（例えば、可視光よりも短い波長を有する紫外線）を照射することで指示薬による呈色を確認できる検査部１３０に対して、当該特殊な波長を有する光を表示部１４４へ照射してよい。収容装置は、収容装置内において、可視光又は特殊光を照射しながら撮影することで呈色情報を取得してもよい。このように、収容装置内で、光を照射しながら表示部１４４を撮影することで、周囲の環境の影響を受けずに、正確に呈色を確認することができる。

[0171] 収容装置は、表示部１４４を撮影することにより取得した呈色情報をネットワーク（管理サーバ）へ送ってもよい。この場合、収容装置は、ユーザ情報として、収容装置の識別子を含めてもよい。また、収容装置は、取得した呈色情報を着用者が所有する通信装置へ送ってもよい。着用者は、呈色情報により示される表示部１４４を通信装置へ表示することによって、呈色の有無を判定してもよい。これにより、着用者は、より正確に健康状態を確認できる。なお、着用者は、上述と同様に、収容装置から取得した呈色情報を通信装置を介してネットワークへ送ってもよい。

[0172] 管理サーバは、呈色情報（及びユーザ情報）に基づいて、着用者（ユーザ）の健康状態を判定することができる。管理サーバは、判定結果を示す情報を呈色情報の送信元である通信装置へ送信してもよい。管理サーバは、判定結果を示す判定情報と共に、判定結果に基づくアドバイスを示すアドバイス情報を当該通信装置へ送信してもよい。管理サーバは、収容装置から呈色情報を受け取った場合であっても、収容装置の識別子と関連付けられている通信装置の識別子（ユーザの識別子）に基づいて、関連付けられている通信装置（すなわち、ユーザが所有する通信装置）へ判定情報（及びアドバイス情報）を送信してもよい。

[0173] 通信装置は、通信装置により受信した判定情報に基づいて、判定結果を表示してよい。これにより、着用者は、表示された判定結果によって健康状態を把握することができる。着用者は、着用者自身の判定によるものではなく、客観的な判定結果を取得できる。また、通信装置は、アドバイス情報を受信した場合には、アドバイスを表示してよい。これにより、着用者は、アドバイスを把握することができる。

[0174] 通信装置は、上述した各種の処理を実行するためのプログラムを有する。通信装置は、プログラムを記憶するメモリ及びメモリに記憶されたプログラムを実行するプロセッサを有する。プログラムは、ネットワーク（例えば、管理サーバ）から取得可能であってよい。

[0175] 上述において、各実施形態は、適宜組み合わされてよい。

[0176] なお、日本国特許出願第２０１８－１２５５８１号（２０１８年６月２９日出願）及び日本国特許出願第２０１８－１２５６０５号（２０１８年６月２９日出願）の全内容が、参照により、本願明細書に組み込まれている。

請求の範囲

[請求項1] 吸収性物品であって、

着用者の健康状態を検査するための検査部材と、

液透過性のトップシートを少なくとも含み、かつ前記検査部材よりも肌面側に配置されている表面側部材と、

液不透過性のバックシートを少なくとも含み、かつ前記検査部材よりも肌面側に配置されている裏面側部材と、を備え、

前記検査部材は、

前記表面側部材を通過した排泄物を接触させる接触部と、

前記排泄物に含まれる対象成分に応じて前記着用者の健康状態を指示薬により表示する表示部と、を有し、

前記表面側部材は、前記表示部の少なくとも一部を覆っており、

前記表面側部材は、前記表示部が視認可能になるように前記裏面側部材から剥離可能である、吸収性物品。

[請求項2] 前記表面側部材には、厚さ方向において前記接触部と重なる開孔が形成されている請求項１に記載の吸収性物品。

[請求項3] 前記表面側部材は、前記トップシートを含む複数のシートにより構成され、

前記開孔は、前記複数のシートのうち一部のシートにのみ形成されている請求項２に記載の吸収性物品。

[請求項4] 前記接触部と前記表示部とは、異なる位置に配置されており、

前記表示部は、前記厚さ方向において前記開孔と重ならない請求項２又は３に記載の吸収性物品。

[請求項5] 前記表面側部材は、前記トップシートよりも非肌面側に配置される液不透過性シートを含み、

前記開孔は、少なくとも前記液不透過性シートに形成されている請求項２から４のいずれか１項に記載の吸収性物品。

[請求項6] 前記開孔は、前記表面側部材を貫通する貫通孔である請求項２に記

載の吸収性物品。

[請求項7] 前記裏面側部材は、前記表面側部材に含まれる液透過性シートよりも親水性又は繊維密度が高い親水性シートを含み、

前記検査部材は、前記親水性シート上に配置されている請求項１から６に記載の吸収性物品。

[請求項8] 包装体であって、

吸収性物品と、

前記吸収性物品を個別に包装する包装シートと、

着用者の健康状態を検査するための検査部と、を有し、

前記検査部は、着用者の排泄物に含まれる対象成分に応じて前記着用者の健康状態を表示し、

前記検査部は、前記包装シートと固定されている又は前記包装シートの一部である、包装体。

[請求項9] 前記検査部は、前記健康状態を表示させるために前記排泄物を接触させる接触部を有し、

前記接触部は、前記包装シートと厚さ方向で重なっている請求項８に記載の包装体。

[請求項10] 前記検査部は、前記健康状態を表示させるために前記排泄物を接触させる接触部を有し、

前記検査部は、前記包装シートの端縁を跨ぐように配置されており、

前記検査部は、前記包装体が開封された状態において前記包装シートの外側へ前記端縁から延出する延出部を有し、

前記接触部は、前記延出部に配置されている請求項８又は９に記載の包装体。

[請求項11] 前記検査部は、前記包装体を開封するために前記包装シートから剥がされるリードテープである請求項８から１０のいずれか１項に記載の包装体。

[請求項12] 前記検査部は、指示薬を含み、かつ前記排泄物に含まれる対象成分に応じて前記着用者の健康状態を前記指示薬により表示する表示部を有し、

前記表示部の少なくとも一部は、撥水性を有する撥水部に覆われている請求項８から１１のいずれか１項に記載の包装体。

[請求項13] 前記表示部が前記撥水部に覆われている状態で、前記健康状態を示す前記指示薬による呈色を視認可能である請求項１２に記載の包装体。

[請求項14] 前記検査部は、前記健康状態を表示させるために前記排泄物を接触させる接触部を有し、

前記接触部の一部は、撥水性を有する撥水部に覆われている請求項８から１３のいずれか１項に記載の包装体。

[請求項15] 前記検査部は、前記接触部が固定されている本体部を有し、

前記接触部は、前記本体部に固定される第１面と、前記第１面と反対側の面である第２面と、前記第１面と前記第２面とをつなぐ第３面と、を有し、

前記第２面は、前記撥水部により覆われており、前記第３面の少なくとも一部は、前記撥水部から露出している請求項１４に記載の包装体。

[請求項16] 前記検査部は、前記包装シートの一部であり、

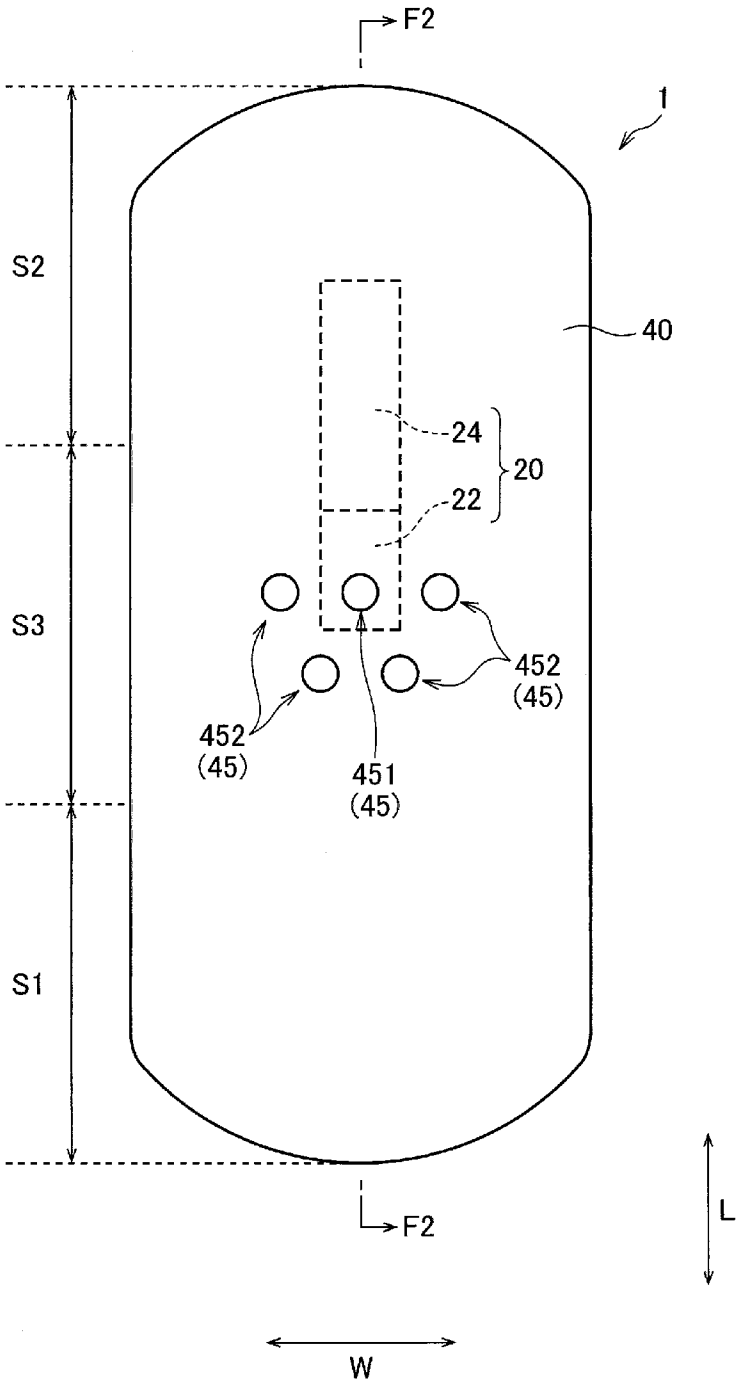
前記包装シートは、

前記健康状態を表示させるために前記排泄物を接触させる接触部と、

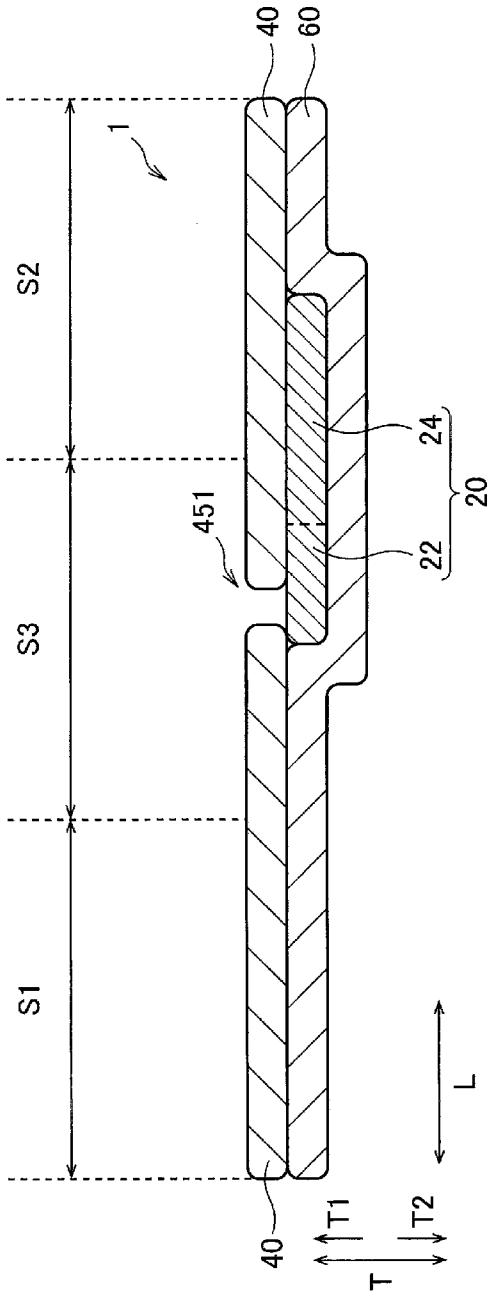
前記排泄物に含まれる対象成分に応じて前記着用者の健康状態を表示する表示部と、を有し、

前記接触部及び前記表示部は、前記包装体の開封前において露出しておらず、かつ、前記包装体の開封により露出する請求項８に記載の包装体。

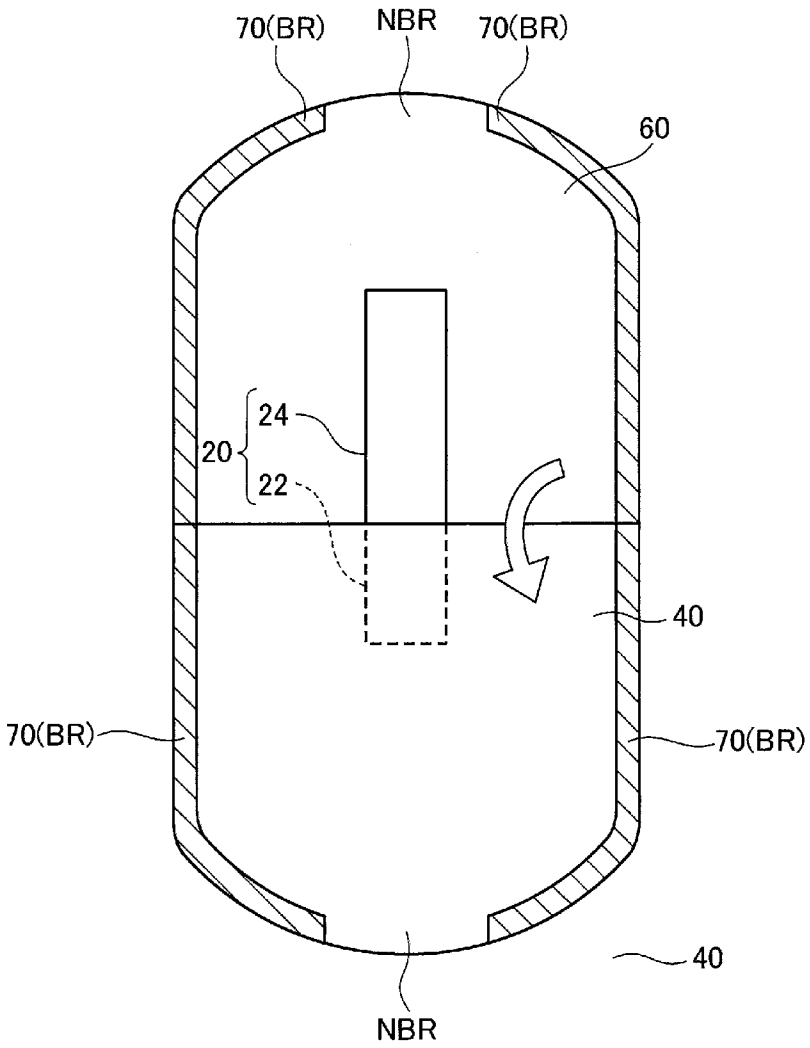
[図1]



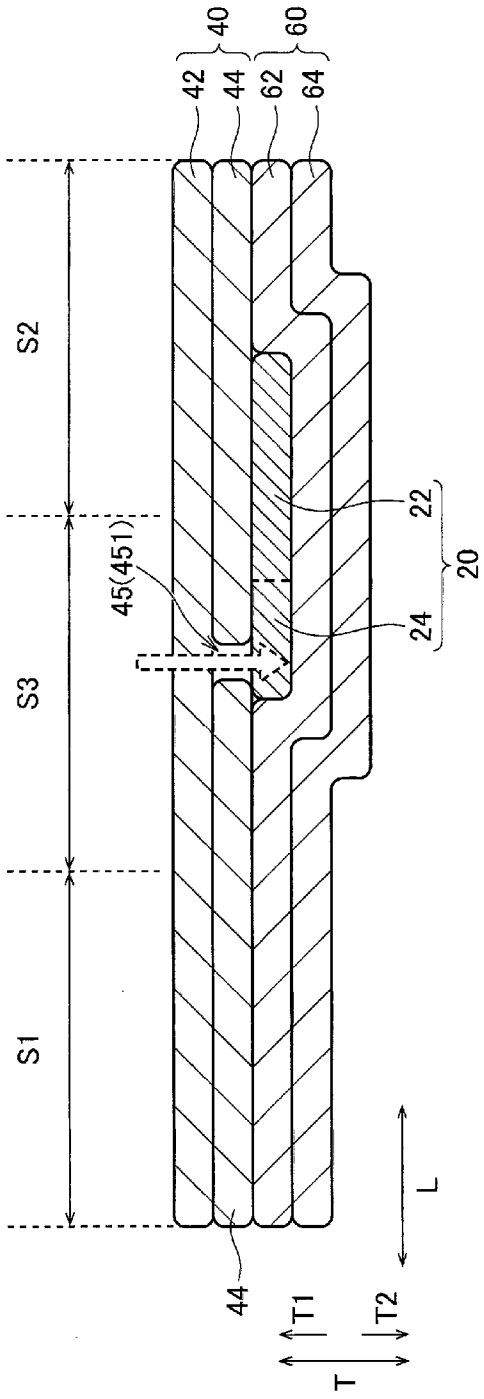
[図2]



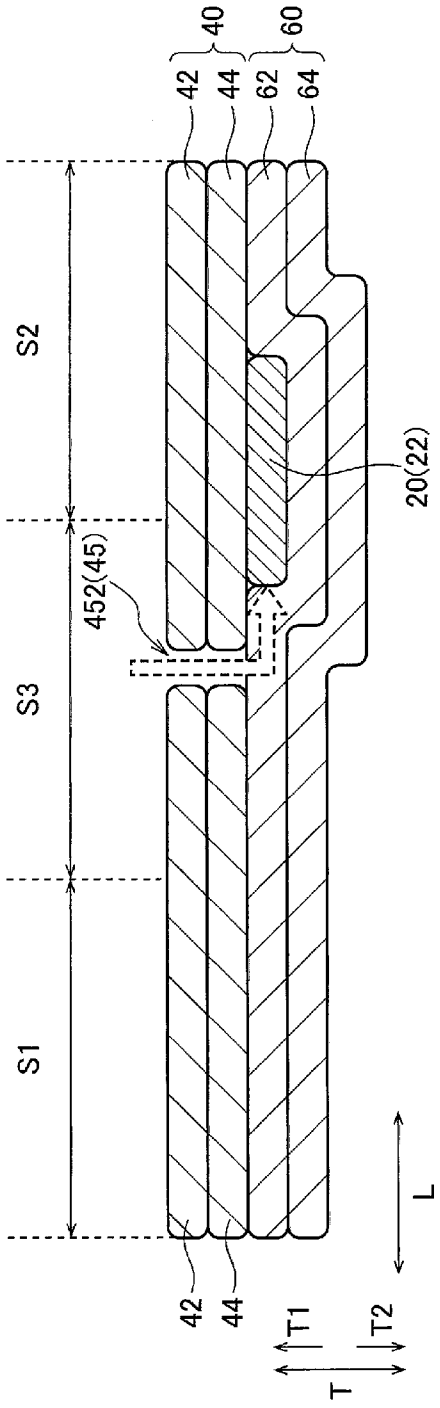
[図3]



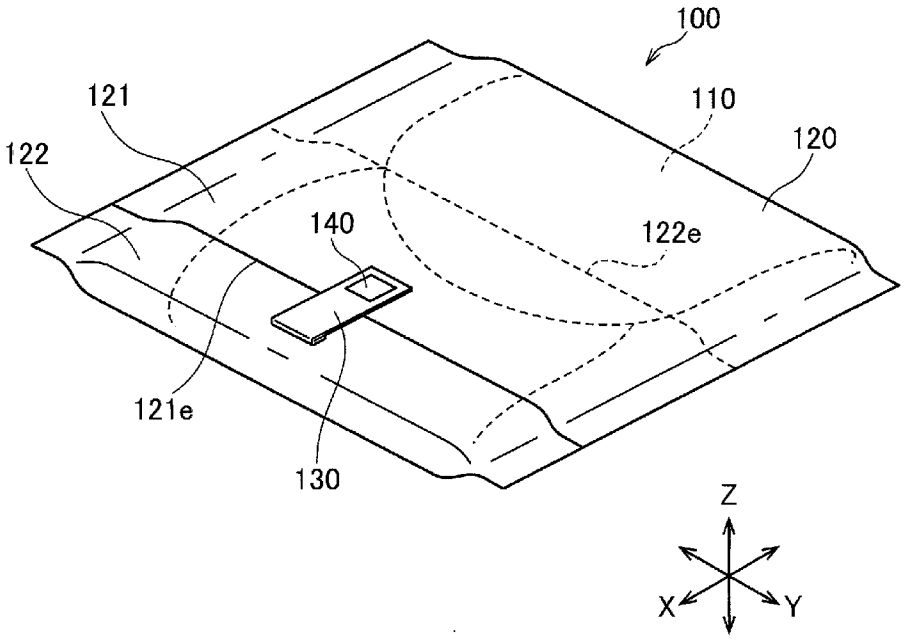
[図4]



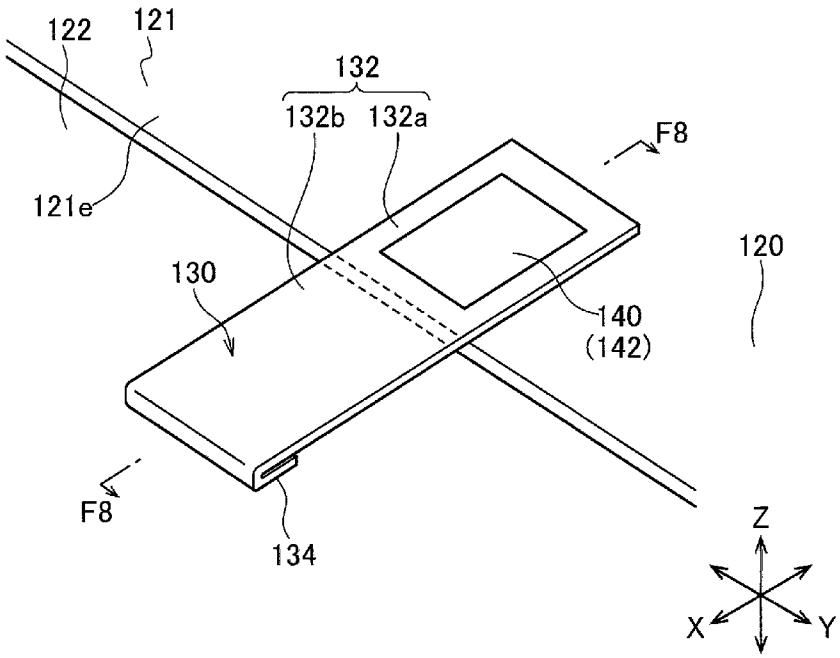
[図5]



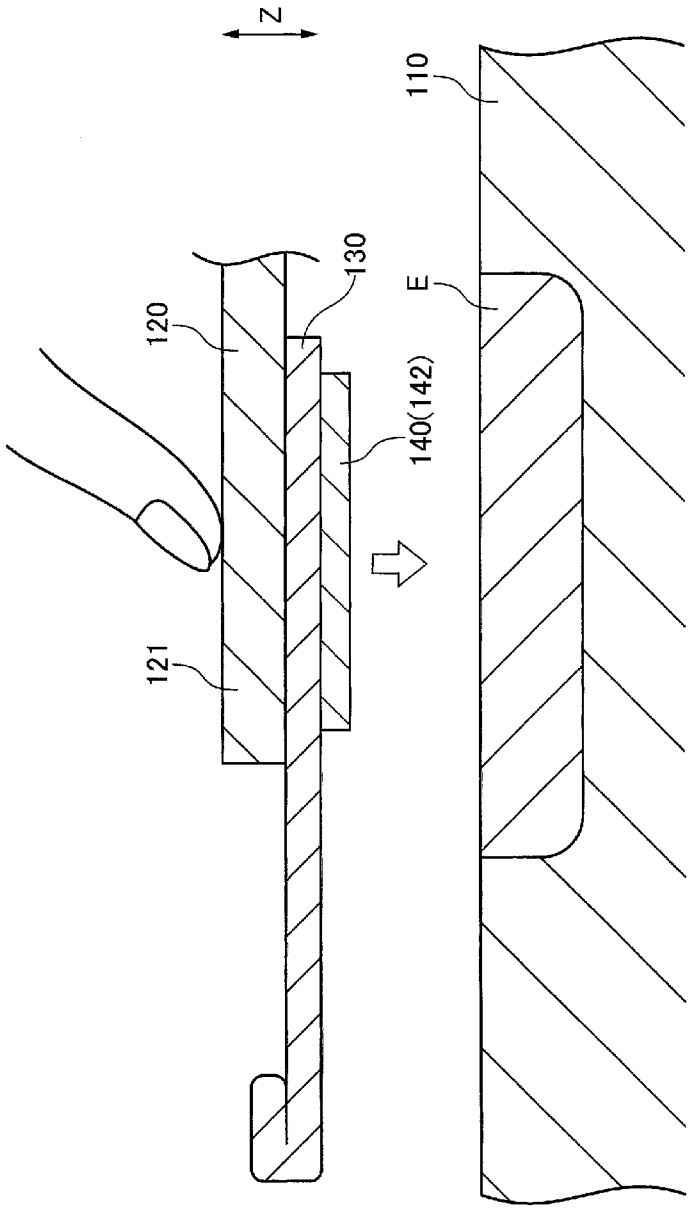
[図6]



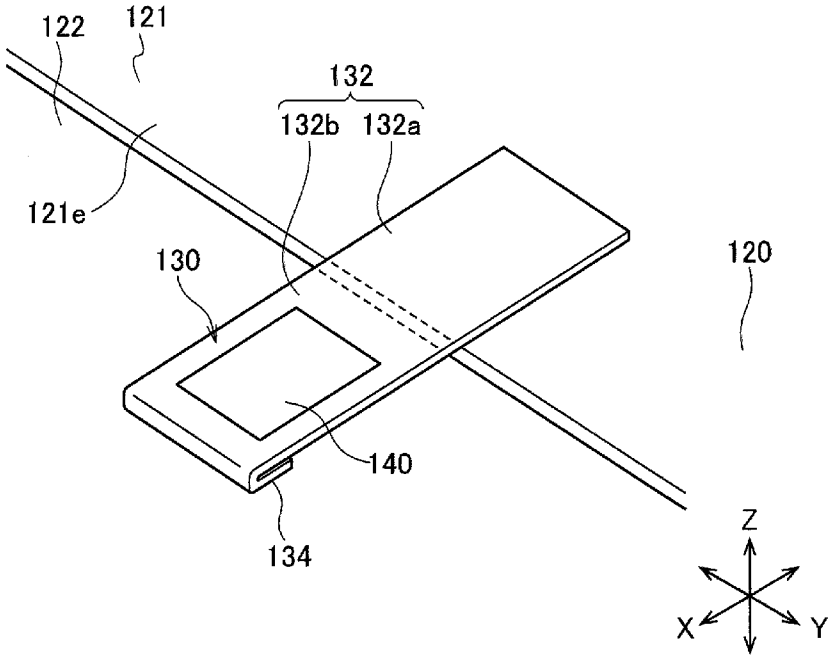
[図7]



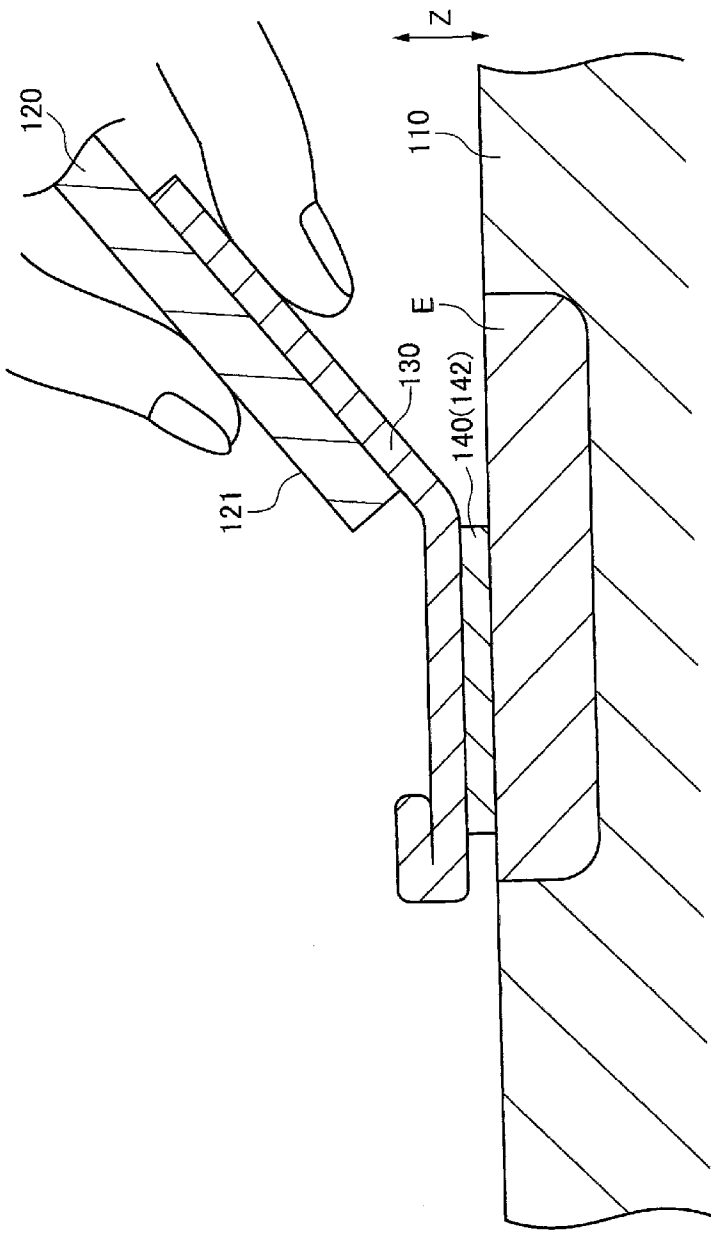
[図8]



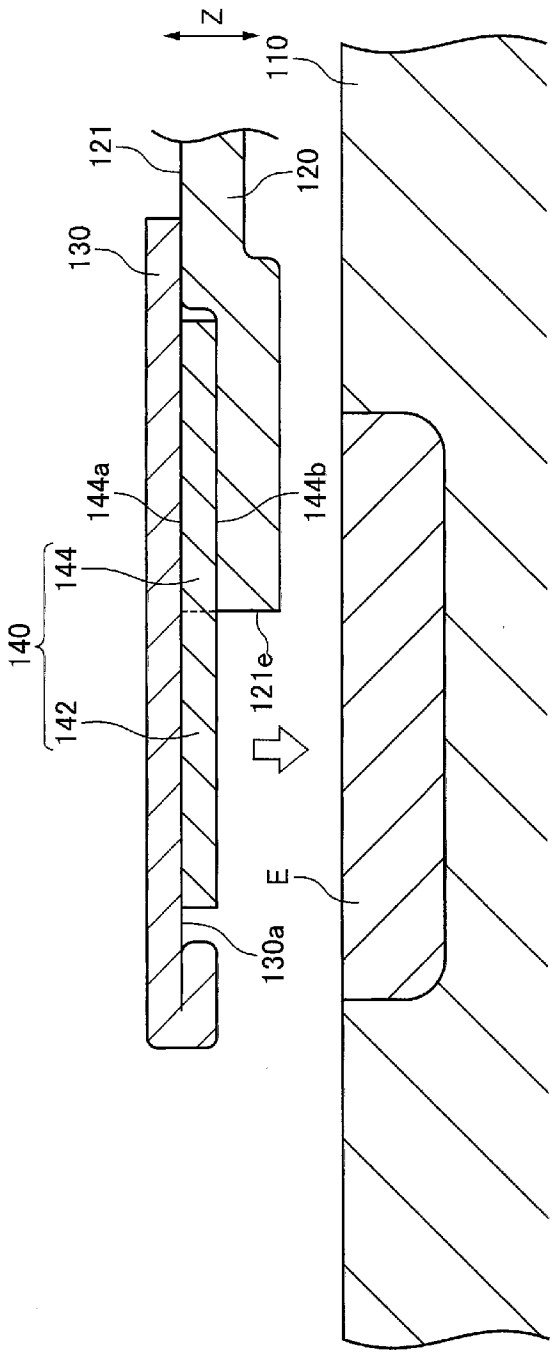
[図9]



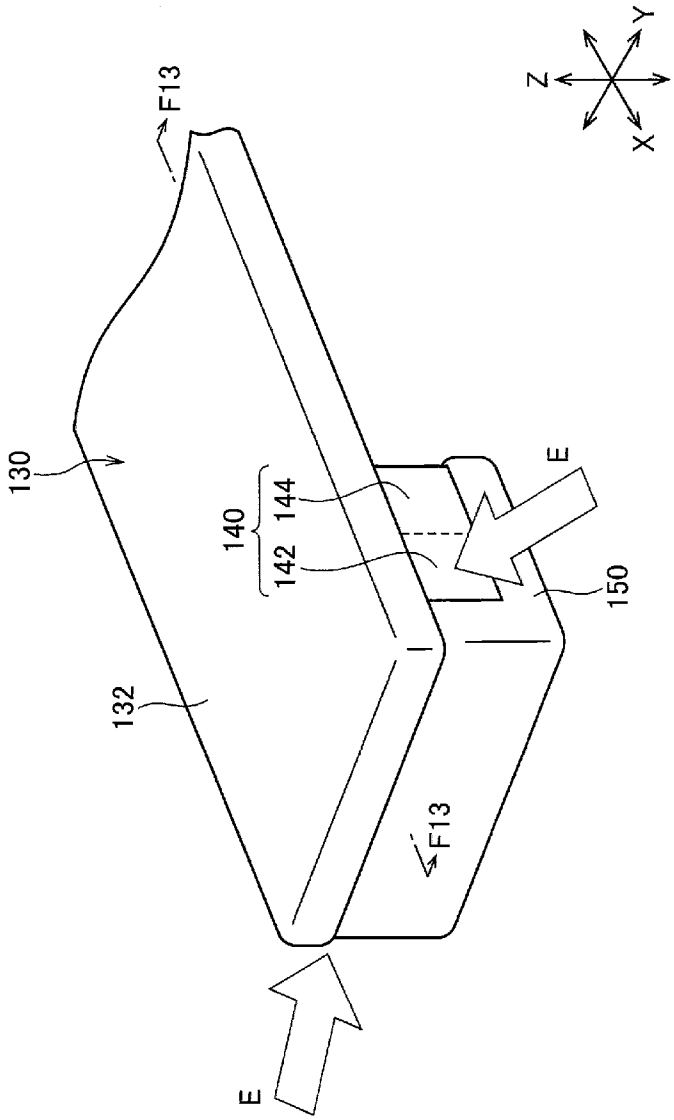
[図10]



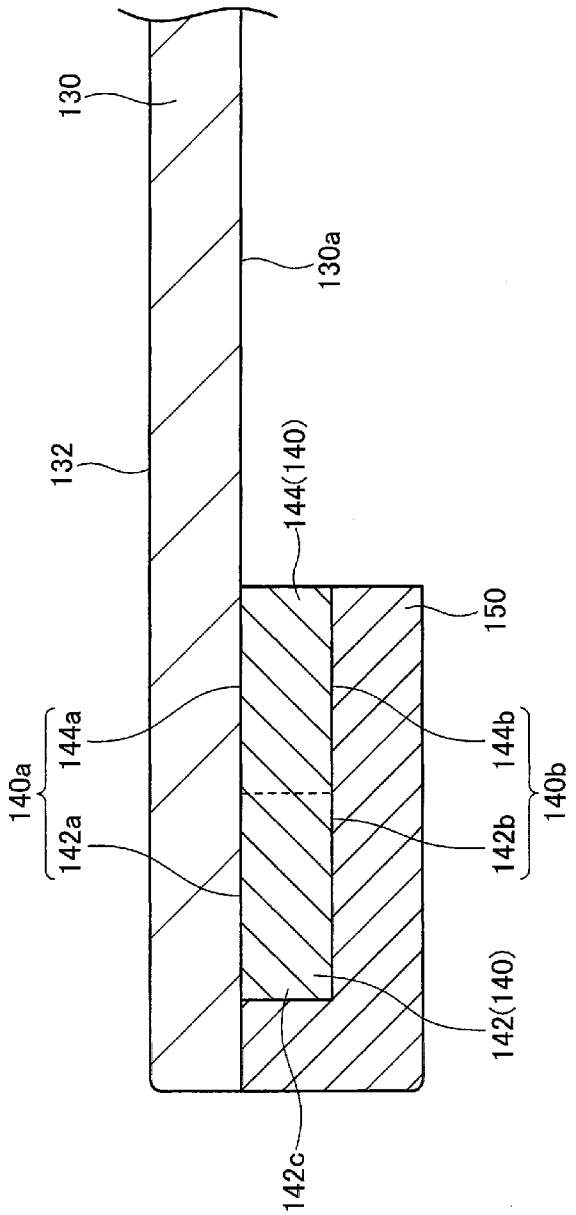
[図11]



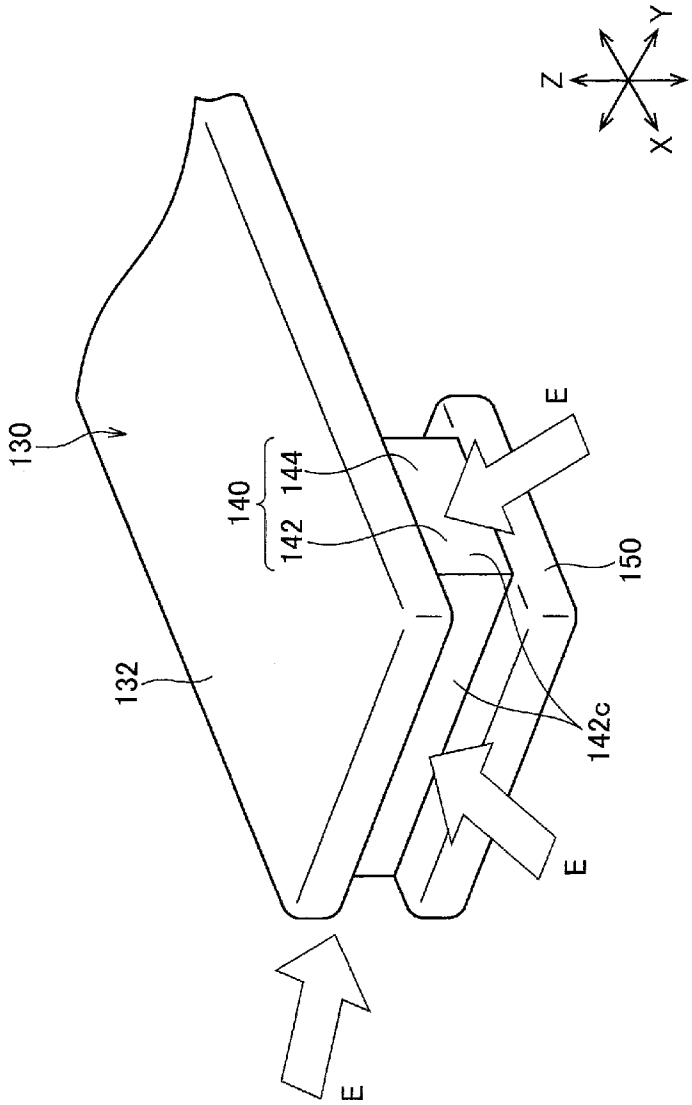
[図12]



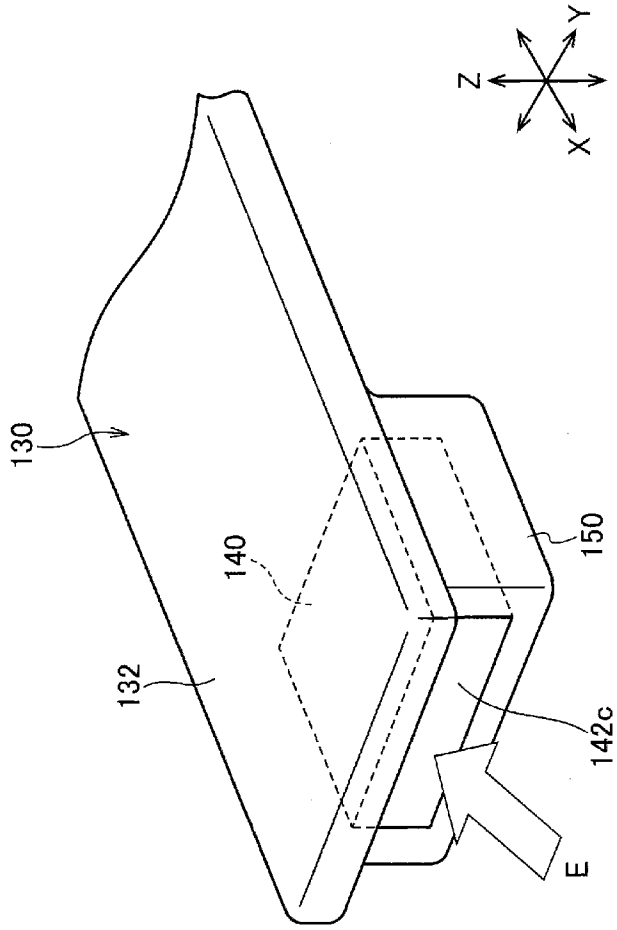
[図13]


130
130a
132
144(140)
150
140a
144a
142a
144b
142b
140b
142(140)
142c

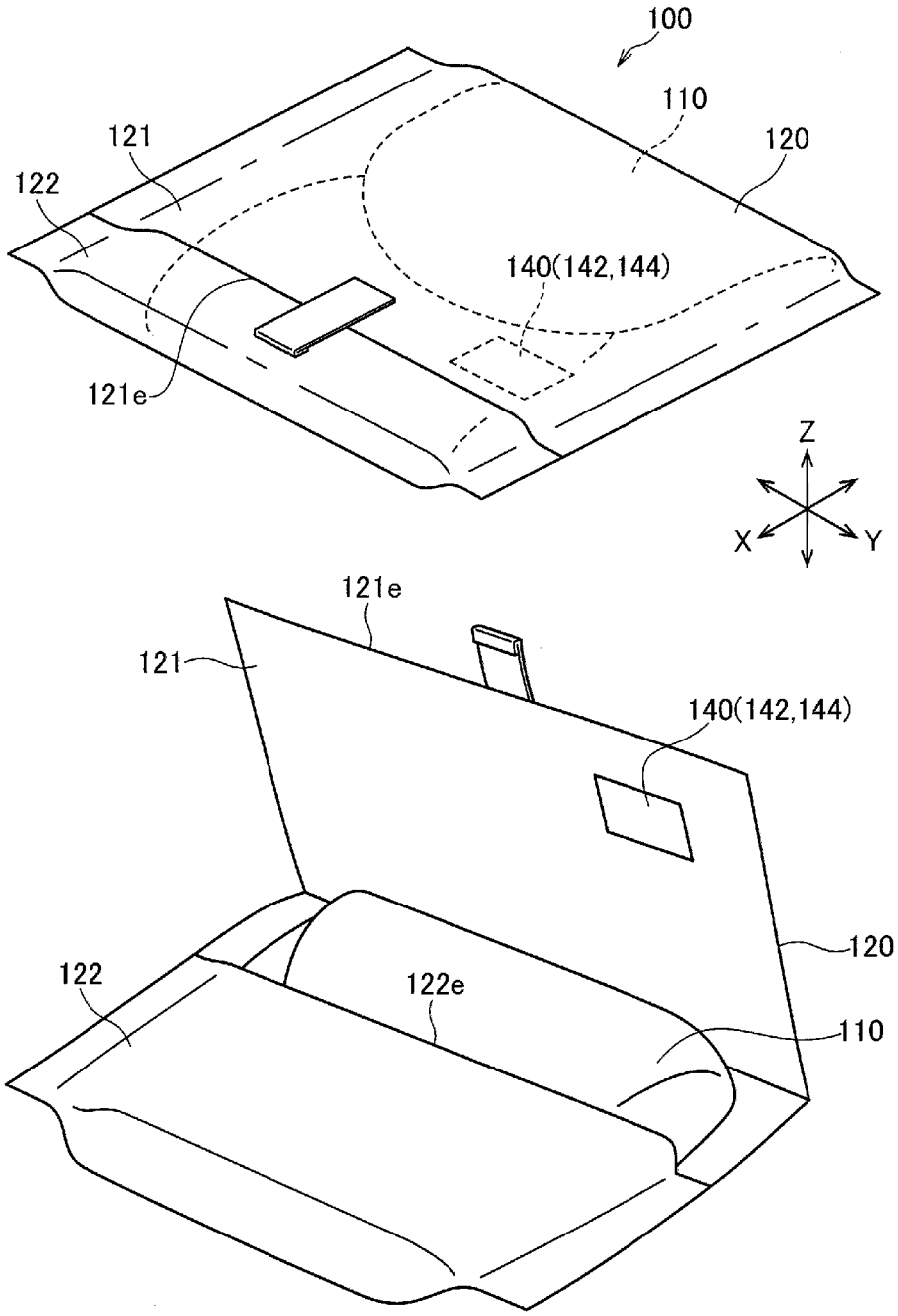
[図14]



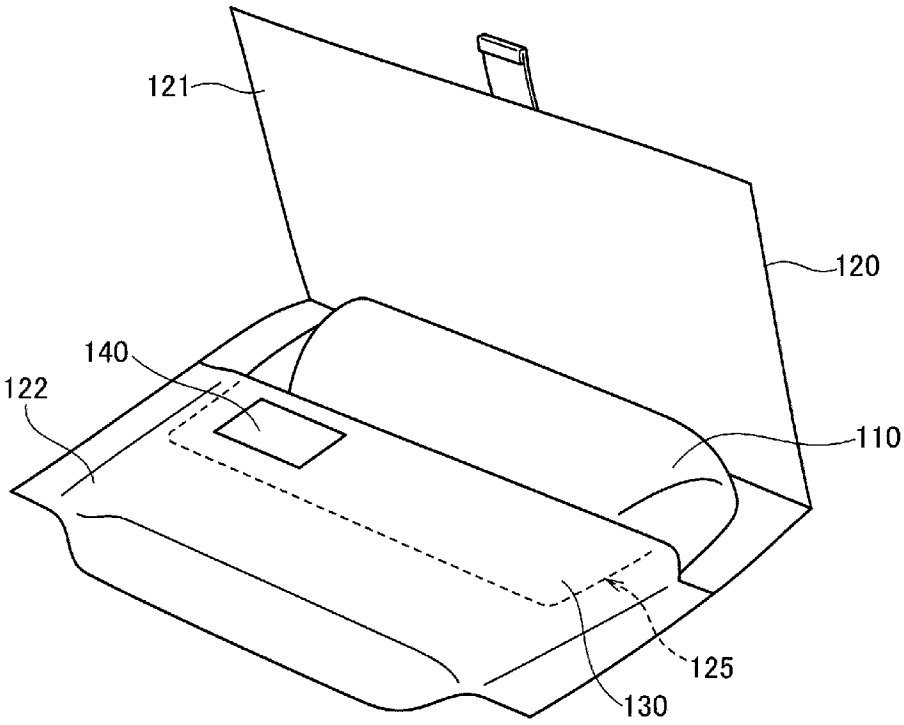
[図15]



[図16]


100
110
120
121
122
140(142,144)
121e
Z
X
Y
121e
121
140(142,144)
120
122
122e
110

[図17]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2019/024485

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
Int.Cl. A61F13/42(2006.01)i, A61F13/511(2006.01)i, A61F13/512(2006.01)i, A61F13/513(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
Int.Cl. A61F13/15-13/84

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan	1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan	1971-2019
Registered utility model specifications of Japan	1996-2019
Published registered utility model applications of Japan	1994-2019

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2004-245818 A (SANYO CHEMICAL INDUSTRIES, LTD.) 02 September 2004, paragraphs [0006]-[0050], [0053]-[0055] & WO 2004/008139 A1	1-16
A	JP 7-88128 A (KOBAYASHI PHARMACEUT CO., LTD.) 04 April 1995, paragraphs [0002]-[0031] (Family: none)	1-16

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
10 September 2019 (10.09.2019)	24 September 2019 (24.09.2019)

Name and mailing address of the ISA/	Authorized officer
Japan Patent Office 3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915, Japan	Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2019/024485

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y A	JP 2003-501216 A (SCA HYGIENE PRODUCTS AB) 14 January 2003, paragraphs [0011]-[0013], [0021], [0024] & WO 2000/076558 A1, page 3, line 27 to page 4, line 10, page 5, lines 17-29, page 6, lines 11-15 & EP 1185311 A1 & SE 514339 C2 & AU 5437700 A & SK 17902001 A3 & PL 352190 A1 & MX PA01012520 A & PE 32001 A1	8-9, 12-14, 16 10-11, 15
A	JP 2016-501613 A (SCA HYGIENE PRODUCTS AB) 21 January 2016 & US 2015/0359689 A1 & WO 2014/098695 A1 & EP 2934416 A1 & TW 201436775 A & CA 2895412 A1 & AU 2012397348 A1 & KR 10-2015-0090201 A & CN 104869968 A & MX 2015007961 A & RU 2015129700 A & PL 2934416 T3	1-16
A	KR 10-2008-0019264 A (LEE, Dong-Hyun) 03 March 2008 (Family: none)	1-16

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2019/024485

Box No. II Observations where certain claims were found unsearchable (Continuation of item 2 of first sheet)

This international search report has not been established in respect of certain claims under Article 17(2)(a) for the following reasons:

1. ☐ Claims Nos.:
because they relate to subject matter not required to be searched by this Authority, namely:

2. ☐ Claims Nos.:
because they relate to parts of the international application that do not comply with the prescribed requirements to such an extent that no meaningful international search can be carried out, specifically:

3. ☐ Claims Nos.:
because they are dependent claims and are not drafted in accordance with the second and third sentences of Rule 6.4(a).

Box No. III Observations where unity of invention is lacking (Continuation of item 3 of first sheet)

This International Searching Authority found multiple inventions in this international application, as follows:
See extra sheet

1. ☒ As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers all searchable claims.
2. ☐ As all searchable claims could be searched without effort justifying additional fees, this Authority did not invite payment of additional fees.
3. ☐ As only some of the required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.:

4. ☐ No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this international search report is restricted to the invention first mentioned in the claims; it is covered by claims Nos.:

Remark on Protest

☐ The additional search fees were accompanied by the applicant's protest and, where applicable, the payment of a protest fee.

☐ The additional search fees were accompanied by the applicant's protest but the applicable protest fee was not paid within the time limit specified in the invitation.

☒ No protest accompanied the payment of additional search fees.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2019/024485

<Continuation of Box No. III>

Document 1: JP 2004-245818 A (SANYO CHEMICAL INDUSTRIES, LTD.) 02 September 2004, paragraphs [0006]-[0050], [0053]-[0055] & WO 2004/008139 A1

Document 2: JP 7-88128 A (KOBAYASHI PHARMACEUT CO., LTD.) 04 April 1995, paragraphs [0002]-[0031] (Family: none)

Claims are classified into the following two inventions.

(Invention 1) Claims 1-7

Claims 1-7 have the special technical feature of "comprising a back-side member that includes at least a liquid-impermeable back sheet, and disposed closer to a skin surface than to the inspection member," wherein "a surface-side member can be peeled off from the back-side member so that the display unit is visible," and are thus classified as invention 1.

(Invention 2) Claims 8-16

Claims 8-16 share the technical feature of "displaying a health condition of a wearer according to a target substance included in excrement of the wearer," with claim 1 classified as invention 1.

However, this technical feature does not make a contribution over the prior art in light of the disclosures of document 1 (in particular, see paragraphs [0006]-[0050], [0053]-[0055]) or document 2 (in particular, see paragraphs [0002]-[0031]), and thus cannot be considered a special technical feature. Also, there are no other identical or corresponding special technical features between claims 8-16 and claim 1.

In addition, claims 8-16 are not dependent on claim 1. Furthermore, claims 8-16 are not substantially identical or equivalent to any of the claims classified as invention 1.

Therefore, claims 8-16 cannot be classified as Invention 1.

Also, the claims 8-16 have the special technical feature of a "packaging body in which an inspection unit is fixed to the packaging sheet or is a portion of the packaging sheet," and are thus classified as invention 2.

国際調査報告

国際出願番号　ＰＣＴ／ＪＰ２０１９／０２４４８５

Ａ．　発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A61F13/42(2006.01)i, A61F13/511(2006.01)i, A61F13/512(2006.01)i, A61F13/513(2006.01)i

Ｂ．　調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A61F13/15-13/84

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報　１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報　１９７１－２０１９年
日本国実用新案登録公報　１９９６－２０１９年
日本国登録実用新案公報　１９９４－２０１９年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

Ｃ．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
A	JP 2004-245818 A (三洋化成工業株式会社) 2004.09.02, 段落 [0006] - [0050], [0053] - [0055] & WO 2004/008139 A1	1-16
A	JP 7-88128 A (小林製薬株式会社) 1995.04.04, 段落 [0002] - [0031] (ファミリーなし)	1-16

☑　Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。　　☐　パテントファミリーに関する別紙を参照。

＊　引用文献のカテゴリー
「Ａ」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「Ｅ」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「Ｌ」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「Ｏ」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「Ｐ」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献
「Ｔ」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「Ｘ」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Ｙ」特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「＆」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日	国際調査報告の発送日
１０．０９．２０１９	２４．０９．２０１９

国際調査機関の名称及びあて先
日本国特許庁（ＩＳＡ／ＪＰ）
郵便番号１００－８９１５
東京都千代田区霞が関三丁目４番３号

特許庁審査官（権限のある職員）　３Ｂ　４４２０
▲高▼橋　杏子
電話番号　０３－３５８１－１１０１　内線　３３２０

C（続き）．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
X A	JP 2003-501216 A (エスシーエー・ハイジーン・プロダクツ・アーベー) 2003.01.14, 段落 [0011] - [0013], [0021], [0024] & WO 2000/076558 A1, 第3ページ第27行-第4ページ第10行, 第5ページ第17行-第29行, 第6ページ第11行-第15行 & EP 1185311 A1 & SE 514339 C2 & AU 5437700 A & SK 17902001 A3 & PL 352190 A1 & MX PA01012520 A & PE 32001 A1	8-9,12-14,16 10-11,15
A	JP 2016-501613 A (エスセーアー・ハイジーン・プロダクツ・アーベー) 2016.01.21, & US 2015/0359689 A1 & WO 2014/098695 A1 & EP 2934416 A1 & TW 201436775 A & CA 2895412 A1 & AU 2012397348 A1 & KR 10-2015-0090201 A & CN 104869968 A & MX 2015007961 A & RU 2015129700 A & PL 2934416 T3	1-16
A	KR 10-2008-0019264 A (LEE,Dong Hyun) 2008.03.03, (ファミリーなし)	1-16

国際調査報告

国際出願番号　ＰＣＴ／ＪＰ２０１９／０２４４８５

第Ⅱ欄　請求の範囲の一部の調査ができないときの意見（第１ページの２の続き）

法第8条第3項（ＰＣＴ17条(2)(a)）の規定により、この国際調査報告は次の理由により請求の範囲の一部について作成しなかった。

１．☐ 請求項 _____ は、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。
つまり、

２．☐ 請求項 _____ は、有意義な国際調査をすることができる程度まで所定の要件を満たしていない国際出願の部分に係るものである。つまり、

３．☐ 請求項 _____ は、従属請求の範囲であってＰＣＴ規則6.4(a)の第2文及び第3文の規定に従って記載されていない。

第Ⅲ欄　発明の単一性が欠如しているときの意見（第１ページの３の続き）

次に述べるようにこの国際出願に二以上の発明があるとこの国際調査機関は認めた。
特別ページ参照。

１．☑ 出願人が必要な追加調査手数料をすべて期間内に納付したので、この国際調査報告は、すべての調査可能な請求項について作成した。

２．☐ 追加調査手数料を要求するまでもなく、すべての調査可能な請求項について調査することができたので、追加調査手数料の納付を求めなかった。

３．☐ 出願人が必要な追加調査手数料を一部のみしか期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、手数料の納付のあった次の請求項のみについて作成した。

４．☐ 出願人が必要な追加調査手数料を期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、請求の範囲の最初に記載されている発明に係る次の請求項について作成した。

追加調査手数料の異議の申立てに関する注意

☐ 追加調査手数料及び、該当する場合には、異議申立手数料の納付と共に、出願人から異議申立てがあった。

☐ 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがあったが、異議申立手数料が納付命令書に示した期間内に支払われなかった。

☑ 追加調査手数料の納付はあったが、異議申立てはなかった。

文献１：JP 2004-245818 A（三洋化成工業株式会社）
2004.09.02，段落［0006］－［0050］，［0053］－［0055］& WO 2004/008139 A1

文献２：JP 7-88128 A（小林製薬株式会社）
1995.04.04，段落［0002］－［0031］（ファミリーなし）

請求の範囲は、以下の２つの発明に区分される。

（発明１）　請求項 1-7
請求項 1-7 は、「液不透過性のバックシートを少なくとも含み、かつ前記検査部材よりも肌面側に配置されている裏面側部材と、を備え」、「表面側部材は、前記表示部が視認可能になるように前記裏面側部材から剥離可能である」という特別な技術的特徴を有しているので、発明１に区分する。

（発明２）　請求項 8-16
請求項 8-16 は、発明１に区分された請求項１と、「着用者の排泄物に含まれる対象成分に応じて前記着用者の健康状態を表示」するという共通の技術的特徴を有している。
しかしながら、当該技術的特徴は、文献１（特に、段落［0006］－［0050］，［0053］－［0055］参照）又は文献２（特に、段落［0002］－［0031］参照）の開示内容に照らして、先行技術に対する貢献をもたらすものではないから、特別な技術的特徴であるとはいえない。また、請求項 8-16 と請求項１との間に、他に同一の又は対応する特別な技術的特徴は存在しない。
さらに、請求項 8-16 は請求項１の従属請求項ではない。また、請求項 8-16 は、発明１に区分されたいずれの請求項に対しても実質同一又はそれに準ずる関係にはない。
したがって、請求項 8-16 は発明１に区分できない。
そして、請求項 8-16 は、「検査部は、前記包装シートと固定されている又は前記包装シートの一部である、包装体。」という特別な技術的特徴を有しているので、発明２に区分する。